

シラバス

(令和3年度)



学校法人巨樹の会
武雄看護リハビリテーション学校
看護学科

目 次

【教育課程内訳・評価計画】

教育課程内訳	1
看護学科 評価計画	2~4

【基礎分野】

論理学	5
健康科学	6
情報科学	7
心理学	8
成長発達論	9
人間関係論	10
倫理学	11
教育学	12~13
家族社会学	14
文化人類学	15
生活科学	16
英語Ⅰ（医療に関する基礎英語）	17
英語Ⅱ（英会話）	18

【専門基礎分野】

人体の発生と構造・血液の成分と機能	19
呼吸・循環の構造と機能	20
消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能	21
脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能	22
生化学	23
疾病の発生と病理的变化	24
呼吸器・循環器・血液造血器の疾病と回復の促進	25
消化器・腎泌尿器・女性生殖器の疾病と回復の促進	26~27

脳神経・運動器・感覚器の疾病と回復の促進	28～29
内分泌・膠原病・感染症・アレルギーの疾病と回復の促進	30
微生物学Ⅰ（微生物の基礎）	31
微生物学Ⅱ（感染と防御）	32
栄養学	33
薬理学Ⅰ（薬物の作用機序）	34
薬理学Ⅱ（薬物療法と看護）	35
総合医療論	36
公衆衛生学	37
社会福祉	38
関係法規	39～40

【専門分野Ⅰ】

看護学概論	41
看護過程の基礎	42
看護研究の基礎	43
共通看護技術 1	44
共通看護技術 2	45
日常生活援助技術 1	46
日常生活援助技術 2	47
ヘルスアセスメント	48
診療に伴う看護技術	49
臨床看護総論	50

【専門分野Ⅱ】

成人看護学概論	51
セルフマネジメントが必要な成人の看護	52
生命が危機状況にある成人の看護	53
セルフケアを再獲得する成人の看護	54～55
治療困難な状況にある成人の看護	56～57

健康障害を持つ成人の看護過程	58
老年看護学概論	59
高齢者のヘルスアセスメントと看護援助	60
健康障害をもつ高齢者の看護	61
健康障害をもつ高齢者の看護過程	62
小児看護学概論	63
健康障害をもつ小児の看護	64
小児看護技術	65
健康障害をもつ小児の看護過程	66
母性看護学概論	67
妊娠期・分娩期の看護	68
産褥期・新生児期の看護	69
母性機能に障害をもつ人の看護	70～71
精神看護学概論	72
こころの健康	73
こころを病む人と医療	74
こころを病む人の看護の展開	75～76

【統合分野】

在宅看護概論	77
在宅看護の対象と法制度	78
在宅における看護技術	79
在宅療養している人の看護過程	80
統合看護技術	81
国際看護	82
災害看護	83
看護管理	84
医療安全	85

教育課程内訳

評価計画

【別表1の1】

看護学科

分野	教育内容	授業科目名	単位	時間	実施学年・時間		
					1年	2年	3年
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	30		
		健康科学	1	15	15		
		情報科学	1	30		30	
	人間と生活、社会の理解	心理学	1	30	30		
		成長発達論	1	30	30		
		人間関係論	1	30	30		
		倫理学	1	30	30		
		教育学	1	30	30		
		家族社会学	1	30	30		
		文化人類学	1	15	15		
		生活科学	1	30	30		
		英語Ⅰ（医療に関する基礎英語）	1	30	30		
		英語Ⅱ（英会話）	1	30	30		
基礎分野 小計		13	360	330	30	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の発生と構造・血液の成分と機能	1	30	30		
		呼吸・循環の構造と機能	1	30	30		
		消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能	1	30	30		
		脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能	1	30	30		
		生化学	1	30	30		
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の発生と病理的变化	2	30	30		
		呼吸器・循環器・血液系器の疾病と回復の促進	1	30	30		
		消化器・腎泌尿器・女性生殖器の疾病と回復の促進	1	30		30	
		脳神経・運動器・感覚器の疾病と回復の促進	1	30		30	
		内分泌・膠原病・感染症・アレルギーの疾病と回復の促進	1	30		30	
		微生物学Ⅰ（微生物の基礎）	1	15	15		
		微生物学Ⅱ（感染と防御）	1	30		30	
		栄養学	1	30	30		
		薬理学Ⅰ（薬物の作用機序）	1	15	15		
		薬理学Ⅱ（薬物療法と看護）	1	30	30		
	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1	15	15		
		公衆衛生学	2	30			30
		社会福祉	2	30			30
		関係法規	2	30			30
	専門基礎分野 小計		23	525	315	120	90

専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	30		
		看護過程の基礎	2	45	45		
		看護研究の基礎	1	30			30
		共通看護技術1	1	30	30		
		共通看護技術2	1	30	30		
		日常生活援助技術1	1	30	30		
		日常生活援助技術2	1	30	30		
		ヘルスアセスメント	1	30	30		
		診療に伴う看護技術	1	30	30		
	臨床看護総論	1	15	15			
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ-1（対象と療養環境を知る）	1	15	15		
		基礎看護学実習Ⅰ-2（日常生活の援助技術）		30	30		
		基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）	2	90			90
	専門分野Ⅰ 小計		14	435	315	90	30

分野	教育内容	授業科目	単位	時間	実施学年・時間			
					1年	2年	3年	
成人看護学	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
		セルフマネジメントが必要な成人の看護	1	30		30		
		生命が危機状況にある成人の看護	1	30		30		
		セルフケアを再獲得する成人の看護	1	30		30		
		治療困難な状況にある成人の看護	1	30		30		
		健康障害を持つ成人の看護過程	1	30		30		
		老年看護学	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30	
				高齢者のヘルスアセスメントと看護援助	1	30		30
				健康障害をもつ高齢者の看護	1	30		30
				健康障害をもつ高齢者の看護過程	1	15		15
小児看護学	小児看護学	小児看護学概論	1	30	30			
		健康障害をもつ小児の看護	1	30		30		
		小児看護技術	1	30		30		
		健康障害をもつ小児の看護過程	1	15		15		
母性看護学	母性看護学	母性看護学概論	1	15		15		
		妊娠期・分娩期の看護	1	30		30		
		産褥期・新生児期の看護	1	30		30		
		母性機能に障害をもつ人の看護	1	30		30		
精神看護学	精神看護学	精神看護学概論	1	15		15		
		こころの健康	1	30		30		
		こころを病む人と医療	1	30		30		
臨地実習	臨地実習	こころを病む人の看護の展開	1	30		30		
		成人看護学実習Ⅰ	2	90		90		
		成人看護学実習Ⅱ	2	90		90		
		成人看護学実習Ⅲ	2	90		90		
		老年看護学実習Ⅰ	2	90		90		
		老年看護学実習Ⅱ	2	90		90		
		小児看護学実習	2	90		90		
		母性看護学実習	2	90		90		
		精神看護学実習	2	90		90		
		専門分野Ⅱ 小計		38	1320	90	780	450

統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	15		15	
		在宅看護の対象と法制度	1	30		30	
		在宅における看護技術	1	30		30	
		在宅療養している人の看護過程	1	30		30	
	看護の統合と実践	看護の統合と実践	統合看護技術	1	30		30
			国際看護	1	15		15
			災害看護	1	15		15
			看護管理	1	15		15
			医療安全	1	15		15
	臨地実習	臨地実習	在宅看護論実習	2	90		90
			統合実習	2	90		90
	統合分野 小計		13	375	0	135	240

教育内容	単位	総時間数	1年	2年	3年
基礎分野	13	360	330	30	0
専門基礎分野	23	525	315	120	90
専門分野Ⅰ	14	435	315	90	30
専門分野Ⅱ	38	1320	90	780	450
統合分野	13	375	0	135	240
総時間	101	3015	1050	1155	810

評価計画 (2021年)

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者	
基礎分野	論理学		1年	1	30	100	100	内田 友子	
	健康科学		1年	1	15	100	100	木村 公喜	
	情報科学		2年	1	30	100	100	高崎 光治	
	心理学		1年	1	30	100	100	樋渡 孝徳	
	成長発達論		1年	1	30	100	100	東 巧	
	人間関係論		1年	1	30	100	100	上瀧 純一	
	倫理学		1年	1	30	100	100	国越 道貴	
	教育学		1年	1	30	100	100	安部 芳樹	
	家族社会学		1年	1	30	100	100	永吉 守	
	文化人類学		1年	1	15	100	100	永吉 守	
	生活科学		1年	1	30	100	100	豊増 美喜	
	英語 I		1年	1	30	100	100	高木 仁美	
	英語 II		1年	1	30	100	100	高木 仁美	
専門基礎分野	人体の発生と構造・血液の成分と機能		1年	1	30	100	100	古後 晴基	
	呼吸・循環の構造と機能		1年	1	30	100	100	古後 晴基	
	消化・内分泌・腎泌尿・生殖の構造と機能		1年	1	30	100	100	北嶋 修司	
	脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能		1年	1	30	100	100	田中 真一	
	生化学		1年	1	30	100	100	北垣 浩志	
	疾病の発生と病理的变化		1年	2	30	100	100	中野 龍治	
	呼吸器・循環器・血液造血器の疾病と回復の促進	呼吸器・血液	1年	1	30	17	70	100	池上 智美
		循環器				5	30		
						8			
	消化器・腎泌尿器・女性生殖器の疾病と回復の促進	消化器	2年	1	30	5	70	100	松本 淳
							8		
		腎泌尿器 女性生殖器				4			
						9	30		
	脳神経・運動器・感覚器の疾病と回復の促進	脳神経	2年	1	30	15	50	100	大中 洋平
		運動器				11	50		
		感覚器				4			
	内分泌・膠原病・感染症・アレルギーの疾病と回復の促進		2年	1	30	100	100	丸山 誠代	
	微生物学 I		1年	1	15	100	100	菖蒲池 健夫	
	微生物学 II		2年	1	30	100	100	菖蒲池 健夫	
	栄養学		1年	1	30	100	100	松尾 麻衣	
薬理学 I		1年	1	15	100	100	西村 直寛		
薬理学 II		1年	1	30	100	100	的場 昭則		
総合医療論		1年	1	15	100	100	樋高 克彦		
公衆衛生学		3年	2	30	100	100	蒲原 知愛子		
社会福祉		3年	2	30	100	100	日高 浩太郎		
関係法規		3年	2	30	100	100	北垣 浩志		

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者		
専門分野Ⅰ	看護学概論		1年	1	30	100	100	小池 恭栄		
	看護過程の基礎		1年	2	45	30	100	古賀 恭子		
		15				山口 真喜子				
	看護研究の基礎		3年	1	30	100	100	石丸 律子		
	共通看護技術 1		1年	1	30	15	50	100	樺澤 秀美	
	共通看護技術 2		1年	1	30	20	50	100	山口 真喜子	
		10				50			石丸 律子	
	日常生活援助技術 1		1年	1	30	100	100	中原 輝子		
	日常生活援助技術 2		1年	1	30	20	50	100	石丸 律子	
		10				50			中原 輝子	
ヘルスアセスメント		1年	1	30	20	100	100	石丸 律子		
	10				100			中原 輝子		
診療に伴う看護技術		1年	1	30	100	100	樺澤 秀美			
臨床看護総論		1年	1	15	50	100	山口 真喜子			
専門分野Ⅱ	成人看護学概論		1年	1	30	20	50	100	古賀 恭子	
		10				50			山口 真喜子	
	セルフマネジメントが必要な成人の看護		2年	1	30	100	100	古賀 恭子		
	生命が危機状況にある成人の看護		2年	1	30	24	100	100	山口 真喜子	
		6				100			竹本 小春	
	セルケアを再獲得する成人の看護	リハビリテーション看護 ストーマ患者・脳卒中患者の看護	2年	1	30	15	50	100	中川 みどり	
						15				50
	治療困難な状況にある成人の看護	緩和・ターミナルケアとは がん看護・白血病患者の看護	2年	1	30	24	100	100	石丸 律子	
						6			100	下川 亜矢
	健康障害を持つ成人の看護過程	急性期患者の看護過程	2年	1	30	10	35	100	山口 真喜子	
		慢性期患者の看護過程				10			30	古賀 恭子
		終末期看護の看護過程				10			35	石丸 律子
	老年看護学概論		1年	1	30	100	100	坂本 清		
	高齢者のヘルスアセスメントと看護援助		2年	1	30	100	100	坂本 清		
	健康障害をもつ高齢者の看護	機能障害のある患者の看護	2年	1	30	15	50	100	丸本 義孝	
		症状看護				15			50	坂本 清
健康障害をもつ高齢者の看護過程		2年	1	15	100	100	坂本 清			
小児看護学概論		1年	1	30	100	100	工藤 広大朗			
健康障害をもつ小児の看護		2年	1	30	100	100	工藤 広大朗			
小児看護技術		2年	1	30	100	100	工藤 広大朗			
健康障害をもつ小児の看護過程		2年	1	15	100	100	工藤 広大朗			
母性看護学概論		2年	1	15	100	100	納富 裕子			
妊娠期・分娩期の看護		2年	1	30	50	100	納富 裕子			
産褥期・新生児期の看護		2年	1	30	15	50	100	酒井 枝津子		
	15				50			大島 玲子		
母性功能に障害をもつ人の看護		2年	1	30	50	100	井田 裕子			

分野	授業科目	単元	履修学年	単位	時間	配点	満点	評価責任者	
専門分野Ⅱ	精神看護学概論		2年	1	15	100	100	岡田 世志美	
	こころの健康		2年	1	30	100	100	西川 清子	
	こころを病む人と医療		2年	1	30	100	100	松本 和彦	
	こころを病む人の看護過程の展開	看護過程の展開	2年	1	30	15	50	100	湊 一郎
ケア方法		15				50	早田 弘志 森 貴弘		
統合分野	在宅看護概論		2年	1	15	100	100	太田 裕美子	
	在宅看護の対象と法制度		2年	1	30	100	100	三田村 美津子	
	在宅における看護技術	日常生活援助	2年	1	30	15	50	100	永松 五百恵
		診療の補助技術				15	50		太田 裕美子
	在宅療養している人の看護過程		2年	1	30	100	100	太田 裕美子	
	統合看護技術		3年	1	30	15	100	100	中原 輝子
						15			樺澤 秀美
	国際看護		2年	1	15	100	100	武田 七重	
	災害看護		3年	1	15	9	100	100	秋永 和之
		6				沖田 洋一郎			
看護管理		3年	1	15	100	100	田川 由美子		
医療安全		2年	1	15	100	100	波多 純一		

基礎分野

分野	基礎	授業科目	論理学		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	内田友子	実務経験		講師所属		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

迅速かつ適切な判断力と明快かつ正確な伝達能力は、医療の現場では特に不可欠である。
この授業では、それらの能力の基盤となる論理的思考や表現力を学ぶ。

2. 学習目標

物事に対する考え方の多様性を客観的に把握した上で、状況に応じて最も適切な判断を行い、さらには自分の考えを明確に説明できる論理的思考と伝達能力を身につける。

3. 授業内容

以下の内容を、習得状況と学生の関心に即して適宜組み合わせながら展開する。

[読む]

- ・論点の抽出と整理 …さまざまな論説文や時事問題から論点を正確に読み取り、整理する。
- ・多角的な読解力 …自分とは異なる立場の主張を想定し、多角的な視点から事象を理解する。

[書く]

- ・文章構成力 …論証を展開する上で必要とされる構成力を文章表現 (論述) で練習する。
- ・客観性と説得力 …多角的な視点から問題を照射し、判断の妥当性を検討する。
また、説得力を支える論理的かつ丁寧な説明のしかたを練習する。

- ・表現力 …語彙を増やし、正確な伝達に必要な表現力を養う。

[話す・伝える]

- ・伝達力 …口頭での伝達に必要な明快さ、簡潔さを練習する。
- ・状況判断 …さまざまな状況 (業務報告、緊急時など) や対象 (人数、年齢など) を想定し、それに応じた実践的な伝達の方法を練習する。

授業の進め方 / 履修上の注意

- ① 講義、課題文 (論述) 作成、学生作成文を題材とした討議、ディベート。
- ② 授業中に論述を作成する場合がありますので、国語辞典等辞書類の準備が望ましい。

テキスト

毎回、教材のプリントを配付します。

参考図書

授業の展開内容や学生の関心に即して適宜紹介します。

評価方法

終講時客観式テスト及び授業中に作成する課題文 (100 点)

分野	基礎	授業科目	健康科学		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	木村 公喜	実務経験		講師所属	日本経済大学	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

医療現場で役立つ生活習慣病の予防・改善、ダイエットや整形外科系疾患のためのトレーニングや健康づくりの実際を修得する。健康科学が仕事としてどう活用されているかを学び、その魅力を学習する。

2. 学習目標

- 1) 身体活動時の体内状態を、単に机上の論にとどまることなく市場の実際として役立つように、事例と合わせて学習する。身体適応を科学し、その意義を考え、運動指導時の科学的基礎を習得する。
- 2) 身体活動の特性と期待できる効果について科学的裏づけをもとに学習し、無酸素性作業閾値などから、目的に応じた運動強度を判断できるように図る。また、エアロビクスや健康づくりの指標となる最大酸素摂取量やエネルギー供給機構の関係から、運動強度(脈拍数によるチェック)・運動時間・運動頻度を求め適切な運動プログラムが作成できるようにする。
 - ・減量や生活習慣病予防のための健康づくりなどの科学的裏付けと実際の実施方法を修得する。
 - ・目的別トレーニング方法を学習する。
 - ・学習したことが医療ビジネスとして成立するように理解する。
 - ・理論にとどまらず、現場で指導できるように理解する。

3. 授業内容

- ・オリエンテーション、健康科学・運動生理学・運動栄養学とはとその可能性と魅力
- ・目的別運動効果がわかる：有酸素運動・無酸素運動、トレーニング効果
- ・トレーニングの急所：運動強度の違いが代謝、骨格筋に及ぼす生理学的効果
- ・健康づくりのための身体活動、健康と食事について
- ・呼吸循環器の基礎、酸素摂取量・心拍数・血圧と運動強度別変化
- ・運動と免疫と健康、体温の関係 ヒトがもつ優れた能力：運動時のホメオスタシス、体温調節
- ・メタボリック対策の理解 総まとめ
- ・試験

授業の進め方 / 履修上の注意

臨床現場における実際とその理論とをセットで、分かりやすくかつ楽しく紹介します。
 コ・メディカルスタッフとして、医療機関で輝くような、ノウハウを習得してもらいます。

テキスト

なし

参考図書

評価方法

加点方式 (講義中の発言などのアピール点+出席状況+試験=総合評価)

分野	基礎	授業科目	情報科学		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	高崎 光浩	実務経験		講師所属	佐賀大学 医学部付属病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

- 根拠に基づく医療・看護 (EBM: Evidence Based Medicine, EBN: Evidence Based Nursing) を実践するために不可欠な、情報処理に関するリテラシーを身につける。
- 医療分野における ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) 利活用について理解する。

2. 学習目標

- 情報処理の基本について理解する
- 情報を効率よく取り扱うためにコンピュータソフトや情報サービスを活用できる
- コミュニケーションの手段としてコンピュータや情報サービスを利用できる。
- 医療分野における情報化について学び、現状の問題点について説明できる。

3. 授業内容

- 情報と情報処理、コンピュータの基礎
- アプリケーションの活用① (効率よい文書作成: ワードプロセッサ [Microsoft Word])
- アプリケーションの活用② (データ分析: 表計算ソフト [Microsoft Excel])
- アプリケーションの活用③ (説明と表現: プレゼンテーションソフト [Microsoft PowerPoint])
- 情報検索
- 医療情報システムについて
- 医療情報の安全な取り扱いについて

授業の進め方 / 履修上の注意

毎回、授業の前半は基礎的な知識を学ぶ講義、後半は (パソコンを用いた) 演習を行う。
講義資料は e ラーニングシステムにて提示し、授業はその資料に沿って進行する。

テキスト

教科書は特に指定しないが、毎回必要な資料を e ラーニングシステムで提供する。

参考図書

講義中に必要に応じて紹介する。

評価方法

学期末の試験の成績、授業中の課題提出状況とその評価点、授業中の意欲 (質問、演習時の他の学生とのコミュニケーション等) を基に総合的に判断する。

分野	基礎	授業科目	心理学		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	樋渡 孝徳	実務経験	臨床心理士	講師所属		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

人の心の多様性、主観性について、様々な心理学の領域を通して学ぶことを目的とする。
対人援助職である看護師としていろいろな患者に接する機会があるが、それぞれの患者の多様な気持ちを、患者の立場に立って理解ができるよう学習を進める。

2. 学習目標

心理・行動・身体の3側面からの心のメカニズムの理解。
相手の身になって話を聞き、理解しようとする態度を身につける。
各種の心理的アプローチを学び、様々な側面から患者を援助する方法を学ぶ。

3. 授業内容

- 1) 心理学とは：こころの扱い方として「こころ」、「行動」、「身体」の3側面からの方法について学ぶ。
 - 2) 知覚1：私たちはありのままの現実を見ているのかという疑問について、錯視などを用いて学ぶ。
 - 3) 知覚2：こころが作り出す世界について、反転図形などをみながら学ぶ。
 - 4) 学習・記憶1：記憶の種類について学ぶ。
 - 5) 学習・記憶2：記憶の変容について、伝言ゲームなどを用いて学ぶ。
 - 6) 発達：人の発達について生涯発達の視点から学ぶ。
 - 7) 印象形成：人に好かれるにはどうしたらいいのかについての心理学の知見を紹介する。
 - 8) 異文化と心理学：文化の違いによって生じるこころの違いについて概観する。
 - 9) 性格・パーソナリティ：種々の性格検査を体験して、自分の性格についての理解を深める。
 - 10) 心理療法と精神医学：心理療法と精神医学についての違いを、それぞれの対比を通して学ぶ。
 - 11) ストレス1：ストレスの概要とストレスへの対処法について学ぶ。
 - 12) ストレス2：ストレスマネジメントの実際を学ぶ。
 - 13) 話の聴き方：カウンセリング的な話の聴き方について体験的に学ぶ。
 - 14) 犯罪心理学：人が犯罪に手をそめてしまう要因について学ぶ。
 - 15) まとめ：簡単な振り返りと、学生が関心のあるテーマについて紹介する。
- なお、学生の反応を見ながら、場合によっては変更することもあります。

授業の進め方 / 履修上の注意

実際に様々な体験をしてもらいますので、積極的に参加してください。

テキスト

参考図書

講義の中で紹介します。

評価方法

テストの点と出席で評価します

分野	基礎	授業科目	成長発達論		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	東 巧	実務経験		講師所属	久留米大学非常勤講師	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

人間の一生涯という全行程を発達のプロセスとしてとらえ、人のライフサイクルにおける各期の身体的・知的・情緒的・社会的な側面が機能的に関連しあって変化していくプロセスを理解し考察する。

2. 学習目標

人間のライフサイクルを理解し、各期における成長、発達の特徴、課題、問題発生への対処法、さらに関連の法規、社会問題等も併せて能動的に学習を行い、まとめ、発表することにより人間の発達を理解することができる。

3. 授業内容

- 1) 人間と発達 学習のねらいと授業の進め方、生涯発達という視点からの人間理解
- 2) 人間の成長発達に関する理論と看護への活かし方、社会現象としての発達 (事例より)
- 3) 人間の発達における共通性、発達に影響を及ぼす因子、ジェンダー
- 4) 人間のライフサイクルと発達：乳幼児期の心と身体 (グループワークによる発表)
- 5) 乳幼児期のまとめ、子どもの健康と家族病理、虐待が子どもの成長発達に及ぼす影響
- 6) 人間のライフサイクルと発達：学童期の心と身体 (グループワークによる発表)
- 7) 人間のライフサイクルと発達：思春期の心と身体 (グループワークによる発表)
- 8) 学童期、思春期のまとめ
- 9) 人間のライフサイクルと発達：青年期の心と身体 (グループワークによる発表)
- 10) 人間のライフサイクルと発達：成人期の心と身体 (グループワークによる発表)
- 11) 青年期のまとめとパラサイトシングル、成人期のまとめ及びジェンダーの視点からの考察
- 12) 人間のライフサイクルと発達：更年期 (男・女) の心と身体 (グループワークによる発表)
- 13) 成人期、更年期 (男・女) のまとめ
- 14) 人間のライフサイクルと発達：老年期の心と身体 (グループワークによる発表)、まとめ
- 15) 筆記試験

授業の進め方 / 履修上の注意

講義に討議形式を加味する。討議は課題テーマを少人数グループに与え、発表者 (グループ) のレポートに基づき討議を行う。発表者は配布資料を準備すること。

毎回の授業に対する反応を確認すると同時に、グループ発表時の質問・意見など意欲的参加状況も評価の参考とする。

テキスト

『看護のための人間発達学』舟島なをみ《医学書院》

参考図書

講義の中で適宜紹介する

評価方法

グループワークによる発表内容、毎回の質問・意見などの参加度、筆記試験成績により総合的に評価

分野	基礎	授業科目	人間関係論		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	上瀧 純一	実務経験	臨床心理士	講師所属		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

講義・グループワークを通して、人間関係について多角的に学ぶ。
看護職としての患者さんたちへの関わり方について学ぶ。

2. 学習目標

- 1) 自己理解・他者理解を深め、相互理解を深める。
- 2) 人間関係への興味を高め、人間関係能力 (コミュニケーション能力) を高める。

3. 授業概要

人間関係に起こる様々な出来事や、その意味を考えていくことで、自らの人生や、他人の人生について考える機会を得ていく。

人間関係の難しさ楽しさについて一緒に考えていきたい。

授業の進め方 / 履修上の注意

講義だけでなく、グループワークや映像資料を多用しながら、自己理解、他者理解、相互理解についての考え方を深めていく。

テキスト

『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』 《医学書院》

参考図書

評価方法

受講中の態度、出席、および終講時試験による評価

分野	基礎	授業科目	倫理学		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	国越 道貴	実務経験		講師所属		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

将来、看護師として患者の生や死に直接関わっていくとき、適切な判断のもとでケアにあたっていけるようになるよう、医療のなかで目指されるべきまた考慮されるべき価値について学びます。

2. 学習目標

医療上の倫理問題から、考え方について特に対立が生じている代表的事例を検討します。それぞれの事例で、現在おおむね採用されている対処方法について学びます。なぜそうした対処方法が取られているのか、その意味を考察します。

3. 授業内容

インフォームド・コンセント/ 安楽死・尊厳死/ 終末期医療/ 臓器移植と脳死/ 人工妊娠中絶/ 出生前診断/ 生殖補助医療/ 医療資源の配分/ 医療倫理の原理/ 看護師の職業倫理 など

授業の進め方 / 履修上の注意

講義形式で進めます。

自分自身で考える練習のために、授業のはじめに前回の授業について意見や感想を述べてもらいます。自宅などで、しっかり復習して下さい。

テキスト

『はじめて出会う生命倫理』玉井真理子・大谷いづみ 編 《有斐閣》(2011)

参考図書

『入門・医療倫理 I』赤林朗 (編) 《勁草書房》(2005)

『看護倫理 I』ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー/坂川雅子 (訳) 《みすず書房》(2006)
その他、授業で適宜紹介します。

評価方法

試験と平素の学習状況によって評価します

分野	基礎	授業科目	教育学		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	安部 芳樹	実務経験		講師所属	長崎国際大学 名誉教授	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

看護師と教師は、人間を対象とした仕事である。看護師も“患者様”と患者中心の看護を行うようになってきている。学校でも授業評価を生徒が行うなど生徒・児童をないがしろにした教育は難しい傾向にある。教育に関する講義を通し、人間理解、社会理解を深め、看護にあたる時の参考になる講義に努める。

2. 学習目標

中高一貫教育やボランティア活動の導入など教育制度の改革は著しく、教育基本法の改正という大改革も行われ、新たな制度が次々に生まれている。いじめや虐待などの児童への権利の侵害などの諸問題も顕在化している。これらを含め教育の基礎的事柄を学習する。

3. 授業内容

次ページに記載

授業の進め方 / 履修上の注意

パワーポイントを使用する講義形式なお、学生に質問しながら授業を進める問答法。

テキスト

作成したプリントで授業を進めるのでテキストは使用しない。

参考図書

各時限で学生には、適宜紹介する。

評価方法

講義中の小テストと定期試験

授業科目	教育学	担当講師	安部 芳樹
------	-----	------	-------

授業概要

3. 授業内容

回数	教育内容 (項目)
1	第一章 教育とは何かを考える 1 「教育」の定義 2 教育を社会の視点から考える
2	第一章 教育とは何かを考える 2 教育を社会の視点から考える 3 公教育 4 競争とアカウンタビリティ
3	第一章 教育とは何かを考える 5 教育と不平等 6 現代の諸相と教育構造
4	第二章 人偏とは何か 1 人間の定義 2 進化と進歩 3 文かと教育 4 学ぶこと教えること
5	第三章 学校とは何か 1 学校の歴史 (西洋の中世までと古代から江戸時代まで)
6	第三章 学校とは何か 1 学校の歴史 (明治期以降)
7	第四章 現代社会と教育 1 教育病理
8	第四章 現代社会と教育 2 自己保存と教育
9	第五章 教育とジェンダー 1 ジェンダーとは何か 2 ジェンダーとカリキュラム 3 ジェンダーと学校教育 4 ジェンダー論を考える
10	第六章 教育改革の動向と背景 1 教育課程と学習指導要領 2 学習指導要領にみる教育活動の変遷
11	第六章 教育改革の動向と背景 4 学習指導要領にみる教育活動の変遷 5 公教育と教育法規
12	第七章 教師と学校 1 評定 2 評価 3 学習形態 4 教師の職務と懲戒
13	第七章 教師と学校 4 教師の職務と懲戒 5 教師像
14	第八章 教育基本法改正をどう考えるか 1 教育基本法改正の基本的特徴 2 前文について 3 教育行政 4 教育目標
15	試験

分野	基礎	授業科目	家族社会学		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回 + テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	永吉 守	実務経験		講師所属		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

私たちの多くは、家族というものを「あたりまえ」のものだと思っています。確かに家族は地球規模でもみても人間の社会に普遍的なものです。しかしながら、家族のありかたは決して「あたりまえ」ではありません。国家や民族によって異なるのみならず、それぞれの家族によっても異なっています。この授業では、そのような家族のありかたについての「あたりまえ」がいかにか多種多様であるかを提示し、看護において必要な「家族」および「社会」に関する基礎知識を習得するとともに、それらに対する柔軟な考え方を身につけることを目的とします。

2. 学習目標

- ・「家族」や「社会」について、自らのことにひきつけて考える。
- ・「家族」や「社会」について、自分だけでなく、患者さんや地域社会に引きつけて考える。

3. 授業内容

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1) 看護学校で「家族社会学」を学ぶ意義 | 2) 「社会」について |
| 3) 社会学と家族社会学 | 4) 家族・親族・出自・婚姻 その1 |
| 5) 家族・親族・出自・婚姻 その2 | 6) 家族・親族・出自・婚姻 その3 |
| 7) ジェンダーと家族 その1 | 8) ジェンダーと家族 その2 |
| 9) 日本の家族の歴史と現代日本の家族 | 10) 死と家族・社会 |
| 11) 病気・医療と家族・社会 その1 | 12) 病気・医療と家族・社会 その2 |
| 13) 新しい新密圏と公共圏のゆくえ | 14) まとめ |

授業の進め方 / 履修上の注意

基本的に講義形式。映像資料なども積極的に活用します。プリント等を配布し、進行します。毎回、質問用紙を配布し、内容を次回の講義にフィードバックする形で進めたいと思います。なお、参考図書にも目を通しておくことが望ましい。

テキスト

使用しない (講義プリント配布)

参考図書

- 『家族論・家族関係論 (第2版 系統看護学講座 基礎分野)』岡堂哲雄 (編) 《医学書院》
『文化人類学』(第3版 系統看護学講座 基礎分野)波平恵美子 (編) 《医学書院》
『よくわかる社会学』(第2版)宇都宮京子 (編) 《ミネルヴァ書房》

評価方法

テスト・出席・授業態度を総合的に評価します。

分野	基礎	授業科目	文化人類学		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	永吉 守	実務経験		講師所属		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

現代はグローバルゼーション (グローバル化) の時代といわれています。それは看護の分野でも例外ではなく、現代日本においては看護や介護の分野で海外からの人々を受け入れる時代に入ってきています。我々は否応となく海外の様々な人々、モノとつながっているのです。そのような中で必要とされるのは、異文化を理解し、さらに自らの文化を客観視したうえで行動する、ということだと思います。文化人類学の授業では、そうした我々の「常識」を解体し、多様な文化を知ったうえで異文化に接する基礎知識を学ぶことを目的とします。

2. 学習目標

- ・「文化」について、自らのことにひきつけながら、その多様なあり方についての知識を習得する。
- ・異文化・多文化の状況の中での、患者さんへの接し方や、医療従事者のありかたについて考える。

3. 授業内容

- 1) イントロダクション・文化人類学と「文化」概念 その1
- 2) 文化相対主義と自民族中心主義
- 3) グローバリゼーション (グローバル化) その1
- 4) グローバリゼーション (グローバル化) その2
- 5) 移住・移民と多文化共生社会 その1
- 6) 移住・移民と多文化共生社会 その2
- 7) 儀礼・祭りと文化、まとめ

授業の進め方 / 履修上の注意

基本的に講義形式。映像資料なども積極的に活用します。プリント等を配布し、進行します。毎回、質問用紙を配布し、内容を次回の講義にフィードバックする形で進めたいと思います。なお、参考図書にも目を通しておくことが望ましい。

テキスト

使用しない (講義プリント配布)

参考図書

『文化人類学』(第3版 系統看護学講座 基礎分野) 波平恵美子 (編) 《医学書院》
『看護人類学』池田光穂 (著) 《文化書房博文社》

評価方法

テスト・出席・授業態度を総合的に評価します

分野	基礎	授業科目	生活科学		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	豊増 美喜	実務経験		講師所属	大分大学大学院 工学研究科 客員研究員	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

人間生活の基盤としての家庭生活，よりよい生活環境のあり方を科学的に捉え，看護につながる能力を身につける。

2. 学習目標

- 1) 人が生きていく上で基盤となる家庭生活・食生活・衣生活・住生活に関する基礎的・基本的な知識を習得する。
- 2) 看護師や患者を取り巻く生活課題を主体的に解決する能力を身につける。

3. 授業内容

第1回 ~ 3回	①近年の家族と家庭生活の変化 ②家庭経済の構造 ③消費者問題
第4回 ~ 8回	①生活と食事 ②身体機能と栄養 ③食生活と健康 ④食品の選択・管理
第9回 ~ 10回	①衣服の役割と機能 ②衣服の素材と表示 ③洗濯と管理
第11回 ~ 14回	①住居の役割と機能 ②生活空間 ③室内環境 ④住居の安全と管理
第15回	テスト・まとめ

授業の進め方 / 履修上の注意

資料 (プリント) を配布する。

視聴覚教材や測定機器を利用した実習などを通じて、授業内容の理解を深める。

積極的な学習活動を期待する。

テキスト

なし

参考図書

特になし (授業の中で指示する)

評価方法

授業中のレポート、試験により評価する

分野	基礎	授業科目	英語 I (医療に関する基礎英語)		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	高木 仁美	実務経験		講師所属		
授業概要						
1. 授業のねらい (学習目的)						
海外からの患者や仕事仲間とのコミュニケーション力をつけることを目指します。そのために医療現場でのやり取り、医療用語、英文を読む力などを伸ばしていきます。それと同時に、リスニングの力をつけてもらいたいと思っています。						
2. 学習目標						
①実際の医療現場で使われる表現を身に付けましょう。						
②病状、身体の部位、治療に必要な基本的な英語語彙を習得するとともに、患者とのやり取りなどに必要な表現を学びます。						
3. 授業内容 (前期はテキストの Chapter 1~7 まで)						
第 1 回		医療・病院に関連した英語など				
第 2 回/第 3 回	Unit 1	自己紹介から始めましょう				
第 4 回/第 5 回	Unit 2	患者さんに質問しましょう				
第 6 回/第 7 回	Unit 3	場所や方向は正しく教えましょう				
第 8 回/第 9 回	Unit 4	患者さんの具合を聞きましょう				
第 10 回/第 11 回	Unit 5	診察時に必要な言い方を覚えましょう				
第 12 回/第 13 回	Unit 6	相手によく確認しましょう				
第 14 回	Unit 7	行為を促す言葉をかけましょう				
第 15 回		前期試験				
授業の進め方 / 履修上の注意						
①授業予定箇所はまず 1 度目を通しておきましょう。						
②授業はしっかりと聞き、分からないところは積極的に質問しましょう。						
③授業には辞書を持ってきましょう。						
テキスト						
古閑博美/野口陽子 著 『キュアとホスピタリティーの英語 I』(鷹書房弓プレス)						
評価方法						
定期試験の結果、授業態度などを総合して評価します。						

分野	基礎	授業科目	英語 II (英会話)		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	高木 仁美	実務経験		講師所属		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

前期に引き続き、医療現場に必要な英語表現を学びます。

2. 学習目標

実際に看護現場にいるつもりで勉強しましょう。少しずつ専門用語も覚えるようにしましょう。

3. 授業内容 (後期はテキストの Chapter 8~14 まで)

第 1 回 / 第 2 回	Unit 8	的確な指示や依頼をしましょう
第 3 回 / 第 4 回	Unit 9	食べ物に関する言い方を覚えましょう
第 5 回 / 第 6 回	Unit 10	薬に関する言い方を覚えましょう
第 7 回 / 第 8 回	Unit 11	患者の要望に答えましょう
第 9 回 / 第 10 回	Unit 12	治療方針について説明しましょう
第 11 回 / 第 12 回	Unit 13	患者さんの質問に答えましょう
第 13 回 / 第 14 回	Unit 14	退院後の生活指導をしましょう
第 15 回		学年末試験

授業の進め方 / 履修上の注意

留意点は前期と同じです。気のゆるみのないように、授業に集中しましょう。

テキスト

前期から引き続き、同じテキストをやっていきます。

参考図書

評価方法

試験の結果と授業態度などを総合して評価します。

專門基礎分野

分野	専門基礎	授業科目	人体の発生と構造・ 血液の成分と機能		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	古後 晴基	実務経験	理学療法士	講師所属	西九州大学	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

看護実践をするにあたり、その基礎となる正常な人体の構造と機能を正しく理解させることが、本学習の目的である。

構造と機能は常に密接な関連があることから、まず人体の基本単位である細胞について理解し、続いて人体を構成する4つの組織の構造と機能を学習する。さらに、人体の発生の意義とそのメカニズムを学ぶことによって、生命の尊さを考える。また、血液の成分と働きを知ることによって、生命をより理解し健康について考える。

2. 学習目標

- 1) 細胞の基本構造とミトコンドリア等の細胞小器官およびDNAの構造と機能を理解する。
- 2) 4つの組織(上皮、支持、筋、神経)の形態機能的特徴を理解する。
- 3) 受精と胎児の発達を理解する。
- 4) 血液の構成成分、血球の分類と機能を理解する。

3. 授業内容

- 1) 解剖学と生理学の歴史と現在
- 2) 細胞組織の構造と機能
- 3) 血液の成分と機能
- 4) 体液の性状、ホメオスタシス、血液型
- 5) 受精と胎児の発生
- 6) 細胞の分裂、死、再生

授業の進め方 / 履修上の注意

- ①講義
 - ②スライド
- 必ず復習をすること、テキスト及び参考書を持参すること。

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄《医学書院》

参考図書

- 「ネッター解剖生理学アトラス」: 相磯貞和・渡辺修一(訳)《南江堂》
「標準生理学」: 小澤澁司・福田一郎《医学書院》

評価方法

筆記試験、授業態度

分野	専門基礎	授業科目	呼吸・循環の構造と機能		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	古後 晴基	実務経験	理学療法士	講師所属	西九州大学	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

健康と病気の仕組みを考えるにあたり、その重要な要素である呼吸と循環のメカニズムを理解させることが、本授業の目的である。

2. 学習目標

- 1) 呼吸の仕組み、すなわち気道・肺の構造と機能がわかる。
- 2) 循環の仕組み、すなわち心臓・血管系とリンパ系の構造と機能がわかる。

3. 授業内容

- 1) 呼吸器系 (上気道、下気道、肺) の構造
- 2) 呼吸の生理 (内呼吸と外呼吸、呼吸器量、ガス交換)
- 3) 胸膜と縦隔
- 4) 心臓の構造と機能
- 5) 血管の組織構造
- 6) 肺循環と体循環
- 7) リンパ管とリンパ器官の構造と機能

授業の進め方 / 履修上の注意

- ①講義
 - ②スライド
- テキストは必ず持参すること。
必ず次に講義するところを読んでおくこと。復習もすること。

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄《医学書院》

参考図書

『ネッター解剖生理学アトラス』相磯貞和・渡辺修一 (訳)《南江堂》
『標準生理学』: 小澤静司・福田一郎《医学書院》

評価方法

筆記試験、授業態度

分野	専門基礎	授業科目	消化・内分泌・腎泌尿・ 生殖の構造と機能		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	北嶋 修司	実務経験	獣医師	講師所属	佐賀大学	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

正常な人体の構造と機能を学習し、看護実践に必要となる基礎医学や臨床医学の基礎を理解する。

2. 学習目標

消化・内分泌・腎泌尿器・生殖のメカニズムとはたらきについて理解する。

3. 授業内容

1) 栄養の消化と吸収

口・咽頭・食道の構造と機能
腹部消化器官の構造と機能
膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能
腹膜

2) 内分泌系による調節

全身の内分泌腺と内分泌細胞
ホルモン分泌の調節
ホルモンによる調節の実際

3) 体液の調整と尿の生成

腎臓
排泄路
体液の調節

4) 生殖

男性生殖器
女性生殖器
受精と胎児の発生

授業の進め方 / 履修上の注意

講義

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄《医学書院》

参考図書

なし

評価方法

終講時 客観式テスト

分野	専門基礎	授業科目	脳神経・骨格・筋・感覚の構造と機能		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	田中 真一	実務経験	理学療法士	講師所属	西九州大学	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

人体の構造と機能のうち、骨格と筋肉、神経系、眼や耳などの構造と機能について学ぶ。
病気の成り立ちを理解するためにはこれらの正常な構造と機能を理解しておく必要がある。

2. 学習目標

人体の活動を統合する働きとして、情報の受容と処理、体の支持と運動がどのようにして行われるのかを学ぶ。

3. 授業内容

- 1) 神経系の構造と機能
- 2) 脊髄と脳
- 3) 脊髄神経と脳神経
- 4) 脳の高次機能
- 5) 運動機能と下行伝導路
- 6) 感覚機能と上行伝導路
- 7) 眼の構造と視覚
- 8) 耳の構造と聴覚・平衡覚
- 9) 味覚と嗅覚
- 10) 疼痛
- 11) 体幹の骨格と筋
- 12) 上肢の骨格と筋
- 13) 下肢の骨格と筋
- 14) 頭頸部の骨格と筋
- 15) 試験

授業の進め方 / 履修上の注意

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄《医学書院》

参考図書

評価方法

小テストと試験で評価

分野	専門基礎	授業科目	生化学		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	北垣 浩志	実務経験		講師所属	佐賀大学	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

医療において化学的な知識は不可欠である。その土台に立って生化学という学問は成り立っている。遺伝子治療や代謝制御、抗生物質など、この分野は日進月歩し現代医療にどんどん取り入れられている。生化学は、将来の医療活動の一つの柱となるであろう。生化学を総括的に理解し、抵抗なく勉強していく事は看護師にとって重要である。

2. 学習目標

以下の質問に正しく答えられるようになる。

- 1) タンパク質とはどのような物質であるか。機能上どのような種類があるか。
- 2) 核酸とは構造上、どのような物質であるか。どのような役割を果たしているか。
- 3) 酵素とはどのような物質であるか。酵素の機能が失われた時はどのような疾患を生じるか。
- 4) 代謝とはどのような現象か。如何に効率良く行なわれているか。
- 5) 脂質、ビタミン、ホルモンなどが体内でどのような働きをしているか。これらと疾病との関係を正しく理解しているか。
- 6) 現代の医学・医療と生化学との関係を理解しているか。

3. 授業内容

基本的にテキストに沿って進めていく。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1) 化学の基礎的な概念 | 2) 生命とは、細胞とは、遺伝とは |
| 3) 生体を構成する物質 | 4) 代謝と酵素反応 |
| 5) 細胞生物学序論 | 6) ホメオスタシスとホルモン |
| 7) 疾患と生化学 | |
| 8) 癌、免疫、生化学的治療 | |

授業の進め方 / 履修上の注意

テキストを中心とした講義を中心に進めていくが、理解をし易くするために小テストを毎週行う。頭とともに手を動かして内容を定着させる。質問を大いに歓迎する。

テキスト

三恵社『生化学・微生物学』北垣浩志 (著)

参考図書

評価方法

試験で評価する。授業の理解度を問う。合格点に至らない者に対しては、再試験を課す。

分野	専門基礎	授業科目	疾病の発生と病理的变化		単位 (時間数)	2単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	中野 龍治	実務経験	医師	講師所属	福岡和白病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

人体の正常状態と対比して病的な状態のことを学びます。

人体の病気にはどのようなものがあるか、その原因や生じた変化を主に形態的な面から学びます。

2. 学習目標

病気はその成り立ちから先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍の5つの病変カテゴリーに分けられます。これらを総論的に学びます。

3. 授業内容

- 1) 病理学とは、病気の原因
- 2) 先天異常と遺伝子異常
- 3) 代謝障害 1
- 4) 代謝障害 2
- 5) 循環障害 1
- 6) 循環障害 2
- 7) 炎症
- 8) 免疫、アレルギー
- 9) 感染症
- 10) 腫瘍 1
- 11) 腫瘍 2
- 12) 呼吸器疾患
- 13) 消化器疾患
- 14) 造血器疾患
- 15) テスト

授業の進め方 / 履修上の注意

プレゼンテーションを使った講義形式

テキスト

『カラーで学べる病理学』 第4版 《ニューヴェルヒロカワ》

『系統看護学講座 専門基礎分野 病理学』《医学書院》

参考図書

評価方法

出席と試験で評価

分野	専門基礎	授業科目	呼吸器・循環器・血液造血器の疾病と回復の促進		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	池上 智美 / 堺 正仁 / 福永 充	実務経験	医師	講師所属	新武雄病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

呼吸器・循環器・血液造血器疾患の病態・症状・治療について理解できる。

2. 学習目標

人体の仕組みを振り返りながら病態生理を学ぶ。

まず、呼吸器・循環器・血液造血器の正常な働きを振り返り、それから異常(病気)の状態を学ぶ。

また、病気の状態を判断するための検査・それを回復させるための治療の基本を学ぶ。

3. 授業内容

呼吸器

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1) 呼吸器感染症(肺炎・結核など) | 2) アレルギー性呼吸器疾患(気管支喘息など) |
| 3) 慢性閉塞性肺疾患 | 4) 肺腫瘍 |
| 5) 呼吸不全 | 6) その他 |

循環器・血液造血器

- 1) 症状とその病態生理、検査と治療・処置、各種の貧血
- 2) 循環器の機能と構造、症状とその病態生理、検査と治療・処置(心電図、心臓カテーテル法など)
- 3) 疾患の理解1(白血病、悪性リンパ腫、出血性疾患など)
- 4) 疾患の理解2(虚血性心疾患:狭心症・心筋梗塞)
- 5) 疾患の理解3(心不全、高血圧)
- 6) 疾患の理解4(不整脈、弁膜症、感染性心内膜炎)
- 7) 疾患の理解5(動脈系疾患、静脈系疾患、高脂血症)
- 8) その他

上記の主要疾患を中心に発生頻度の低い疾患も織り交ぜて学ぶ。進行順序・内容は変動の可能性あり。

授業の進め方 / 履修上の注意

教科書の内容を中心として、必要に応じて資料などを活用しながら講義を進めていく。

テキスト

- 『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器』
- 『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器』
- 『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [4] 血液造血器』

参考図書

講義の中で適宜紹介する

評価方法

筆記試験

分野	専門基礎	授業科目	消化器・腎泌尿器・女性生殖器の疾病と回復の促進		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	松本 淳/ 前田 篤宏/ 平井 朋恵 ほか	実務経験	医師	講師所属	新武雄病院 / 前田病院 武雄レディースクリニック	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

消化器・腎泌尿器

消化器・腎泌尿器の病態・症状・治療について理解できる。

女性生殖器

婦人科疾患の領域を理解し、各疾患の症状・治療を理解する。

2. 学習目標

消化器・腎泌尿器

人体の仕組みを振り返りながら病態生理を学ぶ。

まず、消化器・腎泌尿器の正常な働きを振り返り、それから異常(病気)の状態を学ぶ。

また、病気の状態を判断するための検査・それを回復させるための治療の基本を学ぶ。

女性生殖器

正常と異常の判断ができ、年齢や生殖活動に合わせた対応ができる。

3. 授業内容

次ページに記載

授業の進め方 / 履修上の注意

消化器・腎泌尿器

教科書の内容を中心として、必要に応じて資料などを活用しながら講義を進めていく。

女性生殖器

テキストを中心として必要により資料を提示する。

テキスト

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器』

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [8] 腎泌尿器』

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器』

参考図書

評価方法

筆記試験

<p style="text-align: center;">授業科目</p>	<p style="text-align: center;">消化器・腎泌尿器・女性 生殖器の疾病と回復の促進</p>	<p style="text-align: center;">担当講師</p>	<p style="text-align: center;">藤田博正 / 前田 篤宏 平井 朋恵 ほか</p>
--	---	--	---

授業概要

3. 授業内容

消化器

- 1) 消化器の構造と機能、症状とその病態生理、検査と治療・処置
- 2) 食道の疾患と病態生理
- 3) 胃・十二指腸の疾患と病態生理
- 4) 腸および腹膜疾患と病態生理
- 5) 肝臓・胆嚢の疾患と病態生理
- 6) 膵臓の疾患と病態生理
- 7) 急性腹症
- 8) 腹部外傷

腎泌尿器

- 1) 腎不全（急性・慢性）
- 2) 原発性糸球体腎炎（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）
- 3) 前立腺肥大
- 4) 尿路結石
- 5) 膀胱がん、前立腺がん

女性生殖器

- 1) 女性生殖器の構造及び機能・婦人科診察の手段
- 2) ホルモンと月経の話（初経から閉経まで、先天性疾患など）
- 3) 子宮の病気（子宮癌、子宮筋腫、子宮脱など）診断・治療
- 4) 卵巣・卵管の病気（卵巣癌、卵巣のう腫など）診断・治療

分野	専門基礎	授業科目	脳神経・運動器・感覚器の 疾病と回復の促進		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	大中 洋平/ 藤岡 正浩/ 森田 和 ほか	実務経験	医師	講師所属	新武雄病院 / 新武雄病院 新武雄病院 ほか	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

脳神経・運動器・感覚器疾患の病態・症状・治療について理解できる。

2. 学習目標

人体の仕組みを振り返りながら病態生理を学ぶ。

まず、脳神経・運動器・感覚器の正常な働きを振り返り、それから異常(病気)の状態を学ぶ。

また、病気の状態を判断するための検査・それを回復させるための治療の基本を学ぶ。

3. 授業内容

次ページに記載

授業の進め方 / 履修上の注意

教科書の内容を中心として、必要に応じて資料などを活用しながら講義を進めていく。

テキスト

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経』

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器』

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [12] 皮膚』

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [13] 眼』

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉』

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [15] 口腔』

参考図書

講義の中で適宜紹介する

評価方法

筆記試験

授業科目	脳神経・運動器・感覚器の 疾病と回復の促進	担当講師	大中 洋平/ 藤岡 正浩/ 森田 和 ほか
------	--------------------------	------	-----------------------------

授業概要

3. 授業内容

脳神経

- 1) 脳神経の構造と機能、症状とその病態、検査と治療・処置
- 2) 脳疾患と病態生理：脳血管障害、脳腫瘍、脳の感染症、頭部外傷、水頭症
- 3) 脊髄疾患と病態生理：脊髄血管障害、脊髄動静脈奇形、脊髄炎、頸椎症・腰痛症
- 4) 末梢神経障害：多発性ニューロパチー
- 5) 神経・筋疾患：重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症、多発性筋炎、皮膚筋炎
- 6) 中毒
- 7) てんかん
- 8) 認知症：アルツハイマー、脳血管性認知症、ピック病

運動器

- 1) 運動器の構造と機能、症状とその病態、検査と治療・処置
- 2) 外傷性の運動器疾患：骨折、脱臼、捻挫、打撲、神経損傷
- 3) 内因性の運動器疾患：先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患、骨腫瘍、代謝性骨疾患、筋・腱の疾患、神経の疾患、上肢・上肢帯の疾患、下肢・下肢帯の疾患、脊髄

感覚器

- 1) 感覚器の構造と機能、症状とその病態、検査と治療・処置

分野	専門基礎	授業科目	内分泌・膠原病・感染症・アレルギーの疾病と回復の促進		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	丸山 誠代	実務経験	医師	講師所属	なごみといやしのクリニック	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

内分泌・膠原病・感染症・アレルギー疾患の病態・症状・治療について理解できる。

2. 学習目標

人体の仕組みを振り返りながら病態生理を学ぶ。

まず、消化器・腎泌尿器の正常な働きを振り返り、それから異常(病気)の状態を学ぶ。

また、病気の状態を判断するための検査・それを回復させるための治療の基本を学ぶ。

3. 授業内容

内分泌

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1) 視床下部：下垂体前葉系疾患 | 2) 視床下部：下垂体後葉系疾患 |
| 3) 甲状腺疾患 | 3) 副甲状腺疾患 |
| 5) 性腺疾患 | 6) 消化管ホルモン産生腫瘍 |
| 7) 糖尿病 | 8) 高脂血症 |
| 9) 肥満症とメタボリックシンドローム | 10) 尿酸代謝障害 |

膠原病・アレルギー

- アレルギーの理解：呼吸器・消化器・皮膚・薬物のアレルギーおよびアナフィラキシー
- 膠原病の理解：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、血管炎症候群、多発性筋炎、混合性結合組織病、ペーজেット病など

近年問題となっている感染症

- | | |
|------------------|-------------|
| 1) 発熱・不明熱 | 2) 真菌症感染症 |
| 3) HIV感染症と日和見感染症 | 4) 多剤耐性菌感染症 |

授業の進め方 / 履修上の注意

教科書の内容を中心として、必要に応じて資料などを活用しながら講義を進めていく。

テキスト

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝』

『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症』

参考図書

講義の中で適宜紹介する

評価方法

筆記試験 (マークシート方式)

分野	専門基礎	授業科目	微生物学Ⅰ (微生物の基礎)		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	菖蒲池 健夫	実務経験	薬剤師	講師所属	佐賀大学 医学部	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

看護者は、来院者から感染することもあれば、来院者に感染させることもある。

感染の原因になる生物(細菌・真菌・原虫・ウイルス)の性質を理解し、ヒトと微生物とが関わることでおこる種々の反応を学ぶ。感染がヒトと微生物との相互作用の結果によるものであることを理解することにより、医療現場における感染を防ぎ、来院者を適切に看護する能力を養う。

2. 学習目標

- 1) 微生物(細菌, 真菌, 原虫, ウイルス)の構造と特徴を理解する
- 2) 常在細菌叢とその役割を理解する
- 3) 感染とはなにか, を理解する
- 4) 病原体の病原因子について理解する
- 5) 病原体に対する生体防御機構(自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫)について理解する

3. 授業内容

- 1) 微生物の種類と特徴
- 2) 細菌の形態とその増殖、常在細菌叢とその役割
- 3) 真菌、原虫、ウイルスの形態と増殖
- 4) 微生物感染の機構1(宿主-病原体関係)
- 5) 微生物感染の機構2(病原因子)
- 6) 生体防御機構1(自然免疫)
- 7) 生体防御機構2(獲得免疫)

授業の進め方 / 履修上の注意

テキストを中心に、適宜プリントやスライドを併用して講義する

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎6 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』《医学書院》

参考図書

評価方法

出席状況、質疑応答および筆記試験の成績によって総合的に評価する

分野	専門基礎	授業科目	微生物学Ⅱ (感染と防御)		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	菖蒲池 健夫	実務経験	薬剤師	講師所属	佐賀大学 医学部	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

ヒトに病原性をもつ微生物とその感染症、それらの感染を予防する方法について理解することにより、医療現場における感染を防止し、来院者を適切に看護する能力を養う。

2. 学習目標

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1) 感染症の予防について理解する | 2) 感染症の治療について理解する |
| 3) 感染症の検査・診断について理解する | 4) 感染症の現状と対策について理解する |
| 5) さまざまな微生物とそれらがおこす感染症を理解する | |

3. 授業内容

- 1) 感染症の予防 (滅菌、消毒、予防接種)
- 2) 感染症の検査・診断
- 3) 感染症の治療 (化学療法)
- 4) 感染症の現状と対策 (新興・再興感染症、院内感染、薬剤耐性菌、感染症法)
- 5) 細菌 1 (グラム陽性球菌、グラム陰性球菌)
- 6) 細菌 2 (グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性通性菌)
- 7) 細菌 3 (らせん菌、グラム陽性桿菌、抗酸菌)
- 8) 細菌 4 (嫌気性菌)
- 9) 細菌 5 (スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア)
- 10) 真菌
- 11) 原虫
- 12) ウイルス 1 (DNAウイルス)
- 13) ウイルス 2 (RNAウイルス)
- 14) ウイルス 3 (レトロウイルス、肝炎ウイルス)
- 15) ウイルス 4 (腫瘍ウイルス、プリオン)

授業の進め方 / 履修上の注意

テキストを中心に、適宜プリントやスライドを併用して講義する。

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎 6 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』《医学書院》

参考図書

評価方法

出席状況、質疑応答および筆記試験の成績によって総合的に評価する

分野	専門基礎	授業科目	栄養学		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	松尾 麻衣	実務経験	管理栄養士	講師所属	新武雄病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

食は楽しみであり文化であり社会でもある。

多角的に栄養に関することを理解し、看護対象者の援助につなげて欲しい。

2. 学習目標

- 1) 生きるための栄養の大切さ(基礎)を理解する。
- 2) 食品とその中に入っている栄養素のはたらきを理解する。
- 3) 健康な人(自分)の栄養管理(食事・栄養)が出来るようになる。
- 4) 傷病者や疾患別の栄養管理の必要性を理解する。

3. 授業内容

- 1) 人間栄養学と看護
- 2) 栄養状態の評価と判定(栄養状態の評価と判定の定義と目的、栄養状態の評価・判定法)
- 3) 栄養素の種類とはたらき(糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維、水)
- 4) エネルギー代謝(食品のエネルギー、体内のエネルギー、エネルギー代謝の測定、エネルギー消費)
- 5) 栄養素の消化・吸収(栄養素の消化、栄養素の吸収、栄養素の体内運搬)
- 6) 栄養素の体内代謝
- 7) 栄養ケア・マネジメント
- 8) ライフステージと栄養
- 9) 臨床栄養(病院食、疾患別食事療法の実際、栄養補給法)
- 10) 健康づくりと食品・食事・食生活 付録 日本人の食事摂取基準(2020年版)

授業の進め方 / 履修上の注意

講義：傷病者の栄養としてではなく自分の事として聞くと理解しやすい

演習：栄養計算(計算機が必要)

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 人間の構造と機能 [3] 栄養学』《医学書院》

『八訂 食品成分表』《女子栄養大学出版社》

参考図書

なし

評価方法

終講時 客観式テスト(100点・栄養計算提出20点含む)

分野	専門基礎	授業科目	薬理学 I (薬物の作用機序)		単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
					講義回数	7 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	西村 直寛	実務経験	薬剤師	講師所属	新武雄病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

薬を用いて病気を治療する薬物療法を理解し、看護の実際によりよく活かす。

2. 学習目標

- 1) 薬による病気を治療することを理解する(生理機能と薬物作用の関係)
- 2) 治療に用いる薬物の基本的性質を知る
- 3) 薬の使用目的を学習する
- 4) 薬物療法における看護師の役割の重要性を理解する

3. 授業内容

- 1) 薬理学を学ぶにあたって
 - ・薬理学とはなにか
 - ・薬による病気の治療
- 2) 薬理学の基礎知識
 - ・薬が作用するしくみ
 - ・薬の体内の挙動
 - ・薬物相互作用
 - ・薬効の個人差に影響する因子
 - ・薬物使用の有益性と危険性
 - ・薬と法律
- 3) 抗感染症薬について
 - ・感染症治療に関する基礎事項
 - ・抗感染症薬各論
 - ・特殊な感染症の治療薬
 - ・感染症の治療における問題点

授業の進め方 / 履修上の注意

教科書を中心に講義、理解力の確認のための小テスト

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学』《医学書院》

参考図書

『新クイックマスター 薬理学』鈴木正彦《医学芸術社》

評価方法

終講時テストの結果と課題提出内容評価。小テスト。

分野	専門基礎	授業科目	薬理学Ⅱ (薬物療法と看護)		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	的場 昭則	実務経験	薬剤師	講師所属	新武雄病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

薬を用いて病気を治療する薬物療法を理解し、看護の実際によりよく活かす。

2. 学習目標

- 1) 使用目的を学習する
- 2) 療法における看護師の役割の重要性を理解する

3. 授業内容

- 1) 抗がん薬について
 - ・がん治療に関する基礎事項
 - ・抗がん薬各論
- 2) 免疫治療薬について
 - ・免疫系の基礎知識
 - ・免疫抑制薬
 - ・免疫増強薬, 予防接種薬
- 3) 抗アレルギー薬・抗炎症薬について
 - ・抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬
 - ・炎症と抗炎症薬
 - ・ステロイド性抗炎症薬
- 4) 末梢での神経活動に作用する薬物について
 - ・神経系による情報伝達
 - ・自律神経系作用薬
 - ・交感神経作用薬
 - ・副交感作用薬
 - ・筋弛緩薬, 局所麻酔薬
- 5) 中枢神経系に作用する薬物について
 - ・中枢神経系のはたらきと薬物
 - ・全身麻酔薬
 - ・催眠薬, 抗不安薬
 - ・抗精神病薬
 - ・気分障害治療薬
 - ・パーキンソン症候群治療薬
 - ・抗てんかん薬
 - ・麻薬性鎮痛薬
- 6) 心臓・血管系に作用する薬物について
 - ・抗高血圧薬
 - ・狭心症治療薬
 - ・心不全治療薬
 - ・抗不整脈薬
 - ・利尿薬
 - ・脂質異常症治療薬
 - ・血液に作用する薬物
- 7) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物について
 - ・呼吸器系に作用する薬物
 - ・消化器系に作用する薬物
 - 生殖器・泌尿器系に作用する薬物
- 8) 物質代謝に作用する薬物について
 - ・ホルモンとホルモン拮抗薬
 - ・治療薬としてのビタミン

授業の進め方 / 履修上の注意

教科書を中心に講義、理解力の確認のための小テスト

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学』《医学書院》

参考図書

『新クイックマスター 薬理学』鈴木正彦《医学芸術社》

評価方法

終講時テストの結果と課題提出内容評価。小テスト。

分野	専門基礎	授業科目	総合医療論		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	樋高 克彦	実務経験	医師	講師所属	新武雄病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

今日の医療の新しい展開について理解し、医療や看護の原点についてあらためて考える。
看護師の果たすべき具体的な役割を理解する。

2. 学習目標

- 1) 人々の健康上の問題を解決するため、科学的な根拠に基づいた看護をめざす。
- 2) 健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、ターミナルケアなど、人々の状態に応じた看護があることを理解する。
- 3) 人々が社会資源を活用できるように保健・医療・福祉制度を総合的に理解しておく。
- 4) 人々の多様な価値観を受け止め、職業人としての共感的態度を示すことができる。

3. 授業内容

テキストに沿って行う。

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1) 医療と看護の原点 | 2) 医療の歩みと医療観の変遷 |
| 3) 私たちの生活と医療 | 4) 技術社会の高度化と健康・
生命をめぐる新たな課題 |
| 5) 成熟する社会と人々の意識変革 | 6) 医療を見つめなおす新しい視点 |
| 7) 健康概念の質的变化と保健・
医療の新しい潮流 | 8) 試験 |

授業の進め方 / 履修上の注意

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 [1] 総合医療論』小泉俊三《医学書院》

参考図書

評価方法

出席と試験で評価

分野	専門基礎	授業科目	公衆衛生学		単位 (時間数)	2単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	蒲原 知愛子	実務経験	看護師	講師所属		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

公衆衛生活動を学び、人々の健康とはなにか、健康づくりのための組織とはなにか、医療従事者としての役割機能の理解を深める。

2. 学習目標

- 1) 公衆衛生活動の領域・特徴を学ぶ
- 2) 健康の定義と予防医学、健康づくりについて学ぶ
- 3) 地域・職域保健活動の取組みを学ぶ
- 4) 公衆衛生とは何か述べるができる。

3. 授業内容

- 1) ~ 2) 公衆衛生の概念・活動対象
- 3) ~ 4) 健康の指標 (国民衛生の動向)・疫学的手法
- 5) ~ 6) 公衆衛生のしくみ・環境保健
- 7) ~ 8) 地域保健 (母子保健・成人保健・高齢者保健)
- 9) ~ 10) 地域保健 (精神保健・難病支援・感染症対策)
- 11) ~ 12) 健康危機管理・災害保健・国際保健
- 13) ~ 14) 学校保健・産業保健

授業の進め方 / 履修上の注意

教科書の内容に沿って講義を行う
国民衛生の動向を参考図書とする

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 [2] 公衆衛生』《医学書院》

参考図書

『国民衛生の動向』2020/2021 《厚生統計協会》

評価方法

筆記試験による評価

分野	専門基礎	授業科目	社会福祉		単位 (時間数)	2単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	日高 浩太郎	実務経験	17年	講師所属	東京リーガルマインド	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

看護師は「病気ではなく、病人をみる」。

また、人間の健康に関わる事項に社会のさまざまな立場から関わる看護師にとって、年金・医療・福祉などの社会保障や社会福祉の各制度の理解は必須のものである。そのためには、社会保障・社会福祉の成立過程、目的なども含めて理解する。

2. 学習目標

看護師にとって必要な、医療保障や介護保険をはじめとする社会保障制度ならびに、障害者や要介護者が自立した生活が送れるように支援する社会福祉制度について現状を含めて理解する。

3. 授業内容

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1) 社会保障制度と社会福祉の成立過程 | 2) 社会保障の種類、構造、目的、機能 |
| 3) 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 | 4) 医療保障 |
| 5) 介護保障 | 6) 所得保障 |
| 7) 公的扶助 (生活保護の現状と問題点と脱却へ) | 8) 社会福祉の分野とサービス |
| 9) 社会福祉実践と医療・看護 | 10) 社会福祉の歴史 |

授業の進め方 / 履修上の注意

講義・問題を指定して解答してもらう

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉』《医学書院》

参考図書

『国民衛生の動向』

その他講義中に適宜紹介する

評価方法

筆記試験、授業態度など総合的に評価する

分野	専門基礎	授業科目	関係法規		単位 (時間数)	2単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	北垣浩志	実務経験		講師所属	佐賀大学	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)
次ページに記載
2. 学習目標
次ページに記載
3. 授業内容
細部は教育計画大綱による

授業の進め方 / 履修上の注意

授業の導入にあたって

- 1) 各法律教育項目の授業内容及びネライを説明
- 2) 医療環境を念頭に置いた教育
 - ・少子高齢化・労働能力人口 (15歳～65歳)・失業率・出生率・医療費の増大等、現代社会を取り巻く医療環境の背景を統計的に説明。
 - (この際、とくに法制定改正の根拠・必要性を強調する)

法規教育授業にあたって

- 1) 国の政策
 - 例：すこやか親子21・エンゼルプラン・ゴールドプラン等の重視事項を当該法規と併せて説明。
- 2) 単一法規教育に終始せず、当該法規に関連する法規を併せて体系的に教育する。
 - 例：各種法規にまたがる守秘義務等
- 3) 疑問を後に残さない教育及び言葉の定義の説明
 - 言葉の意味を曖昧にさせない。
 - 例1：刑の執行が終わり、又は刑の執行を受けることがなくなるまでの定義
 - 例2：直ちに・速やかにの時期的関連
 - 例3：看做すと推定すの意味の違い
 - 例4：権利を要求する場合の申請による場合と自動的に権利が発生する場合
 - 例5：定義の把握、褥婦・新生児・妊産婦・周産期・幼児・児童
- 4) 一方的教育は努めて避けるとともに、授業の途中で学生の理解度等を確認するとともに、教育の関心度を高める。
- 5) 関係条文の理解・解釈
 - 物事を考えるに当たり、どの法律とどの法律を組み合わせ解釈しうる能力の基盤の育成。
- 6) 看護事例を努めて多く紹介し、追体験をさせる。

教育終了にあたって

過去の国家試験問題を中心に要点の整理に努める。

演習を授業に積極的に取り入れ、頭とともに手を動かして内容が定着するようにする。

教育の終始にあたり、視聴覚に訴える教育

(教育資機材の活用に努める)

授業科目	関係法規	担当講師	北垣 浩志
------	------	------	-------

授業概要

1. 授業のねらい（学習目的）

- ・各種医療法規及び、労働法規等を学ぶことにより、看護業務上必要な法規条文のエッセンスの取得及び、法体系・法解釈・法適用の基礎を確立する。
- ・行為規範及び行動の準拠である法を学ぶことにより看護師としての自分の地位・役割が明確になる。
- ・法を学ぶことにより、物の見方、考え方が身につき、問題解決の糸口を見直し、業務の幅を拓げる。
- ・法を学ぶことにより、業務上及び私人としての権利、業務関係が明確になり、且つ5W1H（いつ・だれが・どこで・なにを・どのように）の立場で適時的確な行動規範を取れるようにする。
- ・看護者としての地位・役割を明確にさせる。
- ・自学研鑽の気風を助長する。
- ・コンプライアンス（法令遵守）の精神を助長する。

2. 学習目標

- ・法の適用及び解釈にあたり、どの法律とどの法律を組み合わせたらよいか理解できるようになる。
- ・法体系を知ることにより、どこにどのようなことが規定されているか認知できる。
（法の条文を丸暗記するのではなく、法の目的、趣旨から内容を判断することができる。）
- ・法律が規定する権利義務関係を承知することにより、次の者の権利・利益を保護し得る。
①対象者である患者及びその家族 ②看護人である自分自身 ③病院組織
- ・常日頃、看護者として自学研鑽に努めなければ色々変化する医療環境に追隨していけない事を認識させることができる。

テキスト

『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令』《医学書院》

参考図書

- 『医療関係法規』《MCメデカル出版》定価 3,000 円（本体+税）
- 『医療関係法規 新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度 4』木戸修・山本光昭（編）
《メディカルフレンド社》定価 2,415 円（本体+税）
- 『看護職のための関係法規』杉本正子・眞船拓子・南方唾・甲斐克典（編）
《ヌーゲル・ヒロカワ》定価 2,415 円（本体+税）
- 『看護職のための社会福祉・社会保障』杉本正子・眞船拓子・結城俊哉・丸山美知子（編）
《ヌーゲル・ヒロカワ》定価 2,310 円（本体+税）
- 『看護師・保健師国家試験対策ブック』今西春彦（編著）《MCメデカル出版》定価 1,400 円（本体+税）
- 『保健師・看護師国試対策 関係法規 2011 ラ・スパ』テコム編集委員会（編）
《医療評論者》 定価 1,900 円（本体+税）

評価方法

期末テストによる

専門分野 I

分野	専門 I	授業科目	看護学概論		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	小池 恭栄	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

看護の概念と看護の対象の理解、看護の機能と役割を理解し、看護への興味・関心を高めることを目指していく。

2. 学習目標

- 1) 看護の概念が理解できる。(看護について自分の言葉で述べるができる)
- 2) 看護理論の変遷とさまざまな理論について知ることができる。
- 3) 看護の対象が理解できる。
- 4) 看護の機能と役割について述べるができる。
- 5) 看護職者と保健医療サービスについて述べるができる。
- 6) 看護における倫理について述べるができる。

3. 授業内容

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1) 看護とは何か | 2) 看護の対象の理解 |
| 3) 国民の健康・生活の全体像の把握 | 4) 看護の歴史 |
| 5) 看護における倫理 | 6) 看護の提供のしくみ |
| 7) 看護制度と政策 | 8) まとめ・試験 |

授業の進め方 / 履修上の注意

1. 考えさせる授業を実施したい。事前レポートを活用する。グループワークをする。
2. さまざまな考え方があることに気づき、自分の考えとの違いに気づき自分の考えを深める。
3. 自己理解や他者理解につなげる。

テキスト

『基礎看護学 1 看護学概論』《医学書院》

参考図書

『看護覚え書-看護であること看護でないこと 改訂第 7 版』 F. ナイチンゲール (著) / 湯槇ます、他 (訳) 《現代社》
『看護の基本となるもの』 V. ヘンダーソン (著) / 湯槇ます、小玉香津子 (訳) 《日本看護協会出版会》
『国民衛生の動向』 《厚生統計協会》
『看護六法』

評価方法

出席状況 終講時試験 レポート 提出物状況 から総合的に評価する。

分野	専門 I	授業科目	看護過程の基礎		単位 (時間数)	2 単位 (45 時間)
					講義回数	22 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師名	古賀 恭子 山口 真喜子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

看護過程とは、健康上援助を必要とする対象との相互作用に基づいて行う看護上の問題解決過程である。人間を全体的・統合的に捉え、いかに看護援助を意図的・科学的に行っていくのか追求し、その能力を養う。

2. 学習目標

1. 看護過程の意義が理解できる。
2. 看護過程の構成要素とプロセスが理解できる。
3. 紙上事例を用いて、看護計画立案までの看護過程展開が理解できる。
4. 健康問題解決への思考のプロセスが理解できる。

3. 授業内容

1. 看護過程とは
 - 1) 看護過程とは 2) 看護過程の基本構造
2. アセスメント
 - 1) 情報収集 (スクリーニング, フォーカスアセスメント)・アセスメントトレーニング
 - 2) 関連図と問題の統合・優先順位
3. 看護問題の明確化 (看護診断)
 - 1) 関連因子と症状・徴候 2) 看護診断の書き方 3) 看護診断のタイプ
4. 看護計画の立案
 - 1) 看護目標の設定と評価日の設定 2) 看護計画の立案
5. 実施
6. 評価
 - 1) 評価の内容 2) 評価の視点

授業の進め方 / 履修上の注意

問題解決の技法として看護過程を学ぶために、日常生活の中で自分の考え方を検証する訓練を行う。その訓練を通してスクリーニングと焦点アセスメントのつながりを理解する。アセスメントにおいては看護診断の根拠となるので論理性だけでなく状況を総合的に踏まえた判断ができるような視点を学ぶ。紙上事例でそれらの視点・展開の方法を学ぶが、実際の実習と連動させるよう履修進度を配慮する。履修上は基礎看護学実習 I-2 で感じた患者さまの反応を授業で想起させるので学生は患者さまの反応を出来るだけ詳細に記録することを勧める。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I (医学書院)
2. 看護診断ハンドブック第 11 版 (医学書院)
3. 患者さんの情報収集ガイドブック (メヂカルフレンド社)

参考図書

随時紹介する

評価方法

評価は、講義・演習態度 (出席状況, レポート提出状況等), 筆記試験, 紙上事例演習を総合して評価する

分野	専門 I	授業科目	看護研究の基礎			単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
						講義回数	14 回+テスト
開講年次	3 年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	石丸 律子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

- 1) 看護研究の意義と内容を理解し、興味・関心を高めることができる。
- 2) 看護研究に必要な基礎的知識・技術を身につけることができる

2. 学習目標

- 1) 看護研究の意義・目的について理解できる。
- 2) 研究に必要な文献を的確に検索・収集する技術を身につけることができる。
- 3) 関連領域の論文を読み、クリティカルシンキングの重要性について理解できる。
- 4) 看護研究プロセス (問題意識の明確化、研究の進め方、倫理的配慮) における基本事項を理解できる。
- 5) 研究方法を理解できる (研究デザイン・研究計画書の立案・データ収集・分析・論文構成・発表)。

3. 授業内容

- 1) 看護研究とは
- 2) 看護研究の特徴と展開
- 3) 看護研究のプロセス
- 4) 看護研究論文作成
- 5) 看護研究発表

授業の進め方 / 履修上の注意

- ・ 講義
- ・ 看護研究論文作成
- ・ 看護研究論集作成
- ・ 看護研究発表会の開催

講義後、小グループで実際の論文作成を行っていきます。論文は適宜教員へ提出し添削をもらい、修正するという工程を繰り返し作り上げていきます。その際文献を用いることが必須であるため各自検索、収集すること。

テキスト

『看護研究こころえ帳』李節子《医歯薬出版株式会社》(2020)

参考図書

『看護学生のためのケーススタディ』高橋百合子《メヂカルフレンド社》(2013)

『ひとりで学べる 看護研究』山口瑞穂子・石川ふみよ《照林社》(2013)

評価方法

講義・論文作成に取り組む姿勢・態度、客観式テスト、論文の提出

分野	専門 I	授業科目	共通看護技術 I		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	樺澤 秀美	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

看護の各領域に共通する基礎的な看護技術の学習を通して、対象のニーズに応じた援助に必要な知識・技術・態度を身につける。

2. 学習目標

- 1) 看護技術の位置づけが理解できる。
- 2) 安全・安楽を守るための技術を習得することができる。
- 3) コミュニケーションについて理解できる。
- 4) 看護者としての態度を身につける。

3. 授業内容

- 1) 看護技術とは
- 2) 看護技術の質の保障
- 3) 看護技術における倫理
- 4) 衛生的手洗い・個人防護用具
- 5) 看護における安全・安楽
- 6) 安楽な姿勢と動作
- 7) 安全・安楽で効果的な動きのための技術 (看護行為におけるボディメカニクス)
- 8) コミュニケーションの技術・プロセスレコード

授業の進め方 / 履修上の注意

講義・グループワーク

グループワークでは効果的なリーダーシップ・メンバーシップを考えて協力すること。

テキスト

茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I, 医学書院.
任 和子：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II, 医学書院.

評価方法

プロセスレコード (20 点)、筆記試験 (80 点) を総合して評価する。

分野	専門 I	授業科目	共通看護技術 2			単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
						講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	石丸 律子 山口 真喜子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

看護の各領域に共通する基礎的な看護技術の学習を通して、対象者のニーズに応じた援助に必要な知識・技術・態度を習得する。

2. 学習目標

- 1) 対象者および看護職者の安全を考えた看護援助について考えることができる。
- 2) 「清潔・無菌」の意義を理解し、「清潔・無菌」状態を保つための援助技術ができる。
- 3) 創傷管理の基礎知識を理解し、創傷処置ができる。
- 4) 基礎的な看護技術実施過程における看護事故について、対応策を検討できる。
- 5) 看護における学習支援の目的と意義を理解することができる。
- 6) 看護者としての態度を身につける。

3. 授業内容

- 1) 看護技術における安全
- 2) 無菌状態を保つための方法
(滅菌・消毒の種類と方法、感染予防、スタンダードプリコーション、カテーテル管理)
- 3) 無菌の援助技術 (滅菌手袋の着脱、無菌操作、ガウンテクニック)
- 4) 創傷処置 (創洗浄と創保護、テープによる皮膚障害、包帯法)
- 5) 事故防止 (ヒヤリハット事例検討)
- 6) 事例に応じた学習支援

授業の進め方 / 履修上の注意

効果的に授業を進めるため、必要に応じて事前課題、自己課題を課すことがある。

技術の習得には授業時間以外の自己練習が不可欠である。

講義・演習が一体となった科目であり段階的に学習することが必要であるため、欠課した場合は担当教員に早急に相談すること。

テキスト

茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I, 医学書院
任 和子：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II, 医学書院

参考図書

大森武子, 大下静香, 矢口みどり：仲間とみがく 看護技術 イメージ & ビルド & アクション, 医歯薬出版株式会社, 2014.
竹尾 恵子：看護技術プラクティス 第3版, 学研, 2018.

評価方法

講義・演習態度 (出席状況、身だしなみ、グループワーク参加状況)、レポート、筆記試験を総合して評価する

分野	専門 I	授業科目	日常生活援助技術 1		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	中原 輝子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

人間の生活にとっての「環境」について理解し、対象者の「環境」の援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。

人間の生活・生命維持にとっての「活動と休息」「食」について理解し、対象者の「活動と休息」「食」の援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。

2. 学習目標

- 1) 人間の生活にとっての「環境」の意義について理解できる。
- 2) 対象者の生活の場である療養環境について理解し、快適な環境を整える援助技術ができる。
- 3) 「活動と休息」の意義を理解し、「活動と休息」への援助技術ができる。
- 4) 「食生活」の意義を理解し、「食生活」への援助技術ができる。
- 5) 看護者としての態度を身につける。

3. 授業内容

- 1) 快適な環境のための援助技術
 - ①病室の環境整備 (ベッドメイキング、リネン交換)
- 2) 活動と休息の援助技術
 - ①活動・運動の援助
(歩行、自動運動・他動運動、体位変換、褥瘡予防、移乗・移送…車椅子、ストレッチャー)
 - ②睡眠・休息の援助 (環境調整、リラクゼーション)
- 3) 食生活と栄養摂取の援助技術
 - ①食事と栄養摂取 ②食行動の基本的援助 (食事介助) ③疾病時の食事と援助

授業の進め方 / 履修上の注意

- ①授業は講義、グループワーク、DVD、資料等に基づいて進める
 - ②ワークシートを用いての演習
- ※実技試験は練習を十分に行い臨むこと

テキスト

任 和子：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2020.

参考図書

岡庭 豊：看護がみえる vol.1 臨床看護技術 第1版, メディックメディア, 2018.
大森武子, 大下静香, 矢口みどり：仲間とみがく 看護技術 イメージ&ビルド&アクション, 医歯薬出版株式会社, 2014.

評価方法

講義・演習態度 (出席状況、身だしなみ、グループワーク参加状況)、レポート、筆記試験 (70 点)、実技試験 (30 点) を総合して評価する。

分野	専門 I	授業科目	日常生活援助技術 2		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	石丸 律子 中原 輝子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

人間にとっての「清潔」「衣生活」「排泄」について理解し、対象者の「清潔」「衣生活」「排泄」の援助に関する基本的な知識・技術・態度を習得する。

2. 学習目標

- 1) 「清潔」の意義を理解し、根拠をもとに「清潔」への援助技術ができる。
- 2) 「衣生活」の意義を理解し、根拠をもとに「衣生活」への援助技術ができる。
- 3) 「排泄」の意義を理解し、根拠をもとに「排泄」への援助技術ができる。

3. 授業内容

1) 清潔の援助

- ①口腔ケア ②手浴 ③足浴 ④陰部洗浄 ⑤洗髪 ⑥入浴 ⑦全身清拭

2) 衣生活の援助

- ①病衣の条件 ②身だしなみ ③寝衣交換

3) 排泄の援助

①排泄環境

②排泄行動の援助

排泄動作、自然排尿・排便、床上排尿・排便 (尿器・便器・オムツ交換)、導尿、膀胱内留置カテーテルの管理、摘便、洗腸

③排尿・排便障害の種類

授業の進め方 / 履修上の注意

- ①授業は講義、グループワーク、テキスト動画、DVD、資料等に基づいて進める
 - ②デモンストレーション・演習
- ※実技試験は練習を十分に行い受験に臨むこと

テキスト

任 和子：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II, 医学書院, 2020.

参考図書

岡庭 豊：看護がみえる vol.1 臨床看護技術 第1版, メディックメディア, 2018.

竹尾 恵子：看護技術プラクティス 第3版, 学研, 2019.

大森武子, 大下静香, 矢口みどり：仲間とみがく 看護技術 イメージ & ヒール & アクション, 医歯薬出版株式会社, 2014.

評価方法

実技試験 30 点 授業への出席状況、学習態度、課題レポートの提出状況、客観式テスト等を総合的に判断した成績を 70 点とし評価する。なお、技術試験及び、その他の評価両方 6 割以上で単位認定となる。

分野	専門 I	授業科目	ヘルスアセスメント		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	(通年)	
担当講師	中原 輝子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

看護の対象となる人の健康状態の把握や看護援助の評価を行うために必要なヘルスアセスメントについて学ぶ。特に、観察技術の基本となるバイタルサインやフィジカルアセスメント技術を習得する。

2. 学習目標

- (1) 観察技術の基本となるバイタルサイン測定技術を習得する。
- (2) フィジカルアセスメントの目的・方法について理解し、観察技術を習得する。
- (3) 身体各部の測定技術を習得する。
- (4) 看護記録や報告の意義および方法について理解する。

3. 授業内容

回数	講義内容	回数	講義内容
1	ヘルスアセスメントの意義・目的・方法	9～11	身体各部の測定技術
2～4	バイタルサイン測定技術	12～14	体温・呼吸を整える為の援助技術 (電法、吸引、酸素吸入、人工呼吸)
5～7	フィジカルアセスメントの基本的技術		
8	体温表の意義と書き方	15	筆記試験

*バイタルサイン測定は実技試験予定

授業の進め方 / 履修上の注意

対象に看護を行うためには、対象を十分理解しておくことが重要である。対象を理解するためには、的確な計測・観察技術を習得する必要がある。つまり、本科目は、看護学の基本となる科目である。そのため、予習・復習し授業に臨むなど積極的な姿勢が望まれる。また、人体の構造と機能などの科目と密接な関連があるので、既習科目の理解も深めておくことが重要である。

授業の進め方は講義と演習を行う。なお、講義と演習終了後の技術チェックまでに手順書を作成し、それに基づき自己演習を行った上で臨み技術チェックに合格するよう努力する。

テキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術 I、II」医学書院

参考図書

フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術(第4版)：日野原重明編集：医学書院
 フィジカルアセスメント完全ガイド：藤崎都執筆：学研
 実践！フィジカル・アセスメント看護師としての基礎技術(第3版)：小野田千枝子監修：金原出版
 フィジカルアセスメントガイドブック：山内豊明：医学書院
 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ヘルスアセスメント：川村佐和子編者：メディカ出版
 看護技術プラクティス 第3版 竹尾 恵子監修

評価方法

実技試験 30 点 授業への出席状況、学習態度、課題レポートの提出状況、客観式テスト等を総合的に判断した成績を 70 点とし評価する。なお、技術試験及び、その他の評価両方 6 割以上で単位認定となる。

分野	専門 I	授業科目	診療に伴う看護技術			単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
						講義回数	14 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	樺澤 秀美	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

診療に伴う看護技術の学習や演習を通して、対象者(患者)のニーズに応じた援助に必要な知識・技術・態度を身につける。

2. 学習目標

- 1) 診察時の看護師の役割について説明できる。
- 2) 薬物における看護師の役割、各薬物療法の特徴・危険性が説明できる。
- 3) 安全な与薬法を理解することができる。
- 4) 注射に伴う危険性、法的責任を理解し安全な注射法を実施できる。
- 5) ME 機器の操作時の注意点が理解できる。
- 6) 輸血の実際と副作用について説明できる。
- 7) 検査・処置における看護師の役割、援助のポイントが理解できる。

3. 授業内容

- 1) 診察と看護
- 2) 薬物と看護
- 3) 注射と看護
- 4) ME 機器
- 5) 輸血と看護
- 6) 検査と看護

授業の進め方 / 履修上の注意

効果的な学習のため、必要に応じて事前課題・事後課題を課す場合がある。

演習を主とするため、白衣を忘れず身だしなみに留意すること。講義、演習が一体となった科目であるので、欠課した場合、演習に円滑に臨めるように担当教員に相談する。

針の使用などで自己の損傷を起こす可能性があるため、真剣な態度で緊張感を持って授業に臨む。

テキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術 II」医学書院

参考図書

看護技術がみえる VOL.2 臨床看護技術 メディックメディア

評価方法

講義・演習態度(出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、筆記試験、を総合して評価する

分野	専門 I	授業科目	臨床看護総論			単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
						講義回数	7 回+テスト
開講年次	1 年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	山口 真喜子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

患者の健康状態を評価して患者に応じた日常生活の調整方法や診療に伴う看護技術を活用する基礎を習得する。

2. 学習目標

- 1) 健康障害をもつ対象の代表的な症状を理解できる。
- 2) 健康障害をもつ対象の状態に応じた援助技術を習得できる。

3. 授業内容

- 1) 事例に基づく看護技術の適応方法
- 2) 主要症状のある患者の看護
 - ①症状と随伴症状
 - ②症状の観察とアセスメント
 - ③看護診断と看護計画
 - ④援助の実際 (技術項目) 症状の観察と具体的な援助の実際
- 3) 活用する既習の看護技術
SpO₂の測定、バイタルサイン、フィジカルアセスメント、冷罨法、酸素吸入、薬液吸入、体位変換

授業の進め方 / 履修上の注意

- ・主要症状別看護については、教科書や資料をもとに講義する。
- ・ペーパーシュミレーションをグループ学習し、看護援助を見つけ看護技術を演習する。

テキスト

『系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論』《医学書院》(2017)

参考図書

『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 I』《医学書院》(2017)

『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 II』《医学書院》(2017)

『看護技術プラクティス 第3版』竹尾 恵子《学研》(2016)

評価方法

レポート・演習・終講時試験により評価する (100 点)

出席・講義中の態度の状況も評価対象とする

専門分野Ⅱ

分野	専門Ⅱ	授業科目	成人看護学概論			単位 (時間数)	1単位 (30時間)
						講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	古賀 恭子 山口 真喜子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

ライフサイクルにおける成人期にある対象の特徴を、身体的・精神的・社会的側面から捉えるとともに、それらの人々に影響を与える社会の要因とそれらを踏まえた看護の特徴を理解する。

2. 学習目標

- 1) 成人の定義と成人各期の特徴 (発達課題を含む) が理解できる。
- 2) 成人保健の動向 (社会の変化含む) と保健対策が理解できる。
- 3) 健康障害を持つ成人期の対象に有効な概念と看護が理解できる。

3. 授業内容

- 1) 成人と生活
 - ・ 成人とは
 - ・ 成人期の特徴
 - ・ 各発達段階の特徴
- 2) 生活と環境
 - ・ 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 (人口動態・健康格差・職業性疾病・受療状況)
 - ・ 生活と健康をまもりはぐくむシステム
- 3) 成人への看護アプローチの基本
 - ・ 大人の健康行動のとらえ方
 - ・ 行動変容を促進する看護アプローチ
 - ・ 健康障害をもつ大人と看護師の人間関係
 - ・ 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ
 - ・ 意思決定支援
- 4) 健康状態に応じた看護
 - ・ ヘルスプロモーション
- 5) 健康をおびやかす要因と看護
 - ・ ストレスと健康生活
 - ・ 生活行動がもたらす健康問題とその予防

授業の進め方 / 履修上の注意

講義・グループワーク・グループ発表

テキスト

『成人看護学概論』《医学書院》

参考図書

『国民衛生の動向』

評価方法

出席状況・授業態度・グループワーク参加状況、筆記試験を総合して評価する

分野	専門Ⅱ	授業科目	セルフマネジメントが必要な成人の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	古賀 恭子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

慢性期にある対象を3側面から捉え、セルフマネジメントの支援方法を学ぶ

2. 学習目標

- 1) 慢性病が成人の社会生活に及ぼす影響を考え3側面から対象を理解できる
- 2) 慢性期にある対象にとってセルフマネジメントの必要性が理解できる
- 3) 慢性期にある対象がセルフマネジメントを身につけるための学習支援方法を理解できる

3. 授業内容

- 1) 慢性病との共存を支える看護
 - ・慢性病患者の理解
 - ・病みの軌跡 ・健康信念モデル
 - ・エンパワーメント ・自己効力
 - ・セルフケアとセルフマネジメント ・セルフマネジメント支援の構成要素
- 2) 学習者である患者への看護技術
 - ・セルフマネジメントを推進する看護技術
- 3) 症状マネジメントにおける看護技術
 - ・症状マネジメントと看護
 - ・症状マネジメントと看護実践モデル
- 4) 糖尿病と共に生きる患者のセルフマネジメント支援
 - ・糖尿病に関する知識を深める ・日常生活行動の再獲得を支援する看護援助
 - ・血糖コントロール、薬物療法のある生活への援助 ・共同目標の設定
- 5) 腎不全と共に生きる患者のセルフマネジメント支援
 - ・腎不全に関する知識を深める ・透析療法 (血液透析・腹膜透析)・腎移植と治療選択
 - ・食事やシャントに関する知識とセルフケア

授業の進め方 / 履修上の注意

講義・グループワーク

テキスト

- 『系統看護学講座 成人看護学総論』《医学書院》
 『系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝』《医学書院》
 『系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器』《医学書院》

参考図書

随時紹介する

評価方法

出席状況・授業態度・グループワーク参加状況、筆記試験を総合して評価する

分野	専門Ⅱ	授業科目	生命が危機状況にある 成人の看護		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	竹本小春 山口 真喜子	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院 武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

健康状態が急変し、生命の危機状況にある人とその家族の身体的、心理・社会的特徴について理解し、その特徴を踏まえた看護実践を提供するための基礎知識の習得

2. 学習目標

- 1) 急性期、急性期看護の概念について理解できる
- 2) 周手術期について理解できる
- 3) 救急医療の現状と救急医療における看護について理解できる

3. 授業内容

- 1) 急性期看護とは
 - ・ 急性の状態にある患者の身体的・心理的反応
 - ・ 急性の状態にある患者と家族に対する看護
- 2) 周手術期看護
 - ・ 周手術期看護とは
 - ・ 手術前期の看護
 - ・ 手術室看護
 - ・ 手術後期の看護
- 3) 救急医療における看護
 - ・ 救急看護とは
 - ・ 救急患者の特徴
- 4) 集中治療下での看護
 - ・ 心筋梗塞患者の看護 (PCI・IABP など)
 - ・ 人工呼吸器装着中の患者

授業の進め方 / 履修上の注意

基本的に配布した資料に基づいて講義をします。

適宜、事例を使用して、患者のアセスメントの演習を実施します。

テキスト

『臨床外科看護総論』《医学書院》

『臨床外科看護各論』《医学書院》

『救急看護学』《医学書院》

参考図書

『ナースのための術前・術後ケア』《学研》

評価方法

講義受講態度、出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等、筆記試験を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	セルフケアを再獲得する 成人の看護			単位 (時間数)	1単位 (30時間)
						講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	中川 みどり		実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

心身の機能・構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障を来した人とその家族が障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援する方法を学ぶ。

(脳出血を通して認知障害・コミュニケーション障害・運動機能障害を持つ人の看護、人工肛門造設を通してボディイメージの変化に対する看護や社会復帰に向けた看護 など)

2. 学習目標

セルフケアを再獲得する成人の看護の特徴を学ぶ (脳出血・人工肛門を増設された患者の看護など)

3. 授業内容

次ページに記載

授業の進め方 / 履修上の注意

テキストと資料を中心に講義を進める

テキスト

『健康危機状況 セルフケアの再獲得』《メディカ出版》

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 (医学書院)』

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 (医学書院)』

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 (医学書院)』

参考図書

評価方法

講義受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、筆記試験を総合して評価する。

なお、筆記試験は『セルフケアを再獲得する成人の看護』としてまとめて実施する。

授業科目	セルフケアを再獲得する 成人の看護	担当講師	丸山 友紀 中川 みどり
------	----------------------	------	-----------------

授業概要

3. 授業内容

概論 中川

- 1) 中途障害者のセルフケアの再獲得
 - ①「喪失」体験とセルフケア再獲得への意欲の湧出
 - ②学習の困難さに合わせた支援 ③人的・物的環境の整備
- 2) リハビリテーション看護を展開する枠組み
 - ①WHO国際障害分類 ②国際生活機能分類（ICF）
- 3) リハビリテーション看護を必要とする人の特徴
 - ①リハビリテーションを必要とする人の身体的特徴
 - ②リハビリテーションを必要とする人の生活上の特徴
 - ③リハビリテーションを必要とする人の心理的特徴
 - ④リハビリテーションを必要とする人の家族の特徴
- 4) 経過別リハビリテーション
 - ①急性期のリハビリテーション
 - ②回復期のリハビリテーション
 - ③維持期のリハビリテーション
- 5) リハビリテーションを必要とする人への看護援助
 - ①安全を守る看護援助
 - ②障害をあった人のこころを支える看護援助（障害受容）
 - ③日常生活行動の再獲得を支援する看護援助
- 6) 生活の再構築を支える社会資源の活用

各論 丸山

- 1) 身体機能維持・回復を促す看護援助
 - ①廃用症候群の予防 ②機能維持・回復のための訓練
- 2) 安全を守る看護援助
- 3) 日常生活行動の再獲得を支援する看護援助
- 4) 認知障害・コミュニケーション障害を持つ人のリハビリテーション
 - ①高次脳機能障害をもつ人のリハビリテーション
 - ②失語症をもつ人のリハビリテーション
- 5) 運動機能障害をもつ人のリハビリテーション
- 6) ストーマ造設術を受ける患者の看護
 - ①術前～術後の看護
 - ②回復期の看護
 - ③日常生活についての指導
 - ④ボディイメージの変化に対する看護
 - ⑤家庭復帰・社会復帰に向けたアセスメント ③～⑤についてのアセスメント・看護計画

分野	専門Ⅱ	授業科目	治療困難な状況にある 成人の看護		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	石丸 律子 下川 亜矢	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校 小倉医療センター	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

終末期看護とは身体的な健康のレベルが低くなって、不可逆な状態となり死を向かえる時期に提供されるケアを指している。そこで提供されるケアは、終末期という時期の特徴を十分に踏まえたものである必要がある。

石丸

生と死を通して終末期にある患者、家族の特徴と闘病を支える看護師の役割やケアの方法について学ぶ。
がん医療の進歩に対応したがん看護の実践とその根拠について学ぶ。

下川

治療期から終末期における看護師の役割について学ぶ。

2. 学習目標

石丸

終末期の特徴とケアの方法が理解できる。
がん治療とがん看護の実践が理解できる。
また、化学療法・放射線療法を受ける患者が理解できる。

下川

治療期から終末期における意思決定支援を学ぶ。
がん化学療法及び看護が理解できる。
全人的苦痛及びそのマネジメントが理解できる。

3. 授業内容

次ページに記載

授業の進め方 / 履修上の注意

テキストと資料を中心に講義を進める

テキスト

『緩和ケア 第2版』《医学書院》

『系統看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器』《医学書院》

『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論』《医学書院》(2017)

参考図書

『成人看護学 慢性期』《南江堂》

『系統看護学講座 別冊 がん看護』《医学書院》

評価方法

講義受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、筆記試験を総合して評価する。
なお、筆記試験は『治療困難な状況にある成人の看護』としてまとめて実施する。

授業科目	治療困難な状況にある 成人の看護	担当講師	石丸 律子/下川 亜矢
------	---------------------	------	-------------

授業概要

3. 授業内容

石丸

1) 緩和・終末期看護序説

- ①生と死を考える
- ②終末期にある人の身体的・心理・社会・霊的苦痛を考える（一人の患者の死を通して）
- ③終末期・緩和ケアとは
- ④終末期にある人の療養の場と倫理的課題

2) 終末期にある人とその家族のケア

- ①家族ケア
- ②意思決定を支えるケア
- ③日常生活を支えるケア
- ④スピリチュアルケア

3) 看取りのケア

石丸・※印は下川

1) がん看護とは

※2) がん化学療法と看護

3) 放射線療法と看護

※4) 症状メカニズムとそのマネジメント

- ①倦怠感 ②疼痛 ③浮腫 ④呼吸症状 ⑤消化器症状 ⑥精神症状

※5) 薬剤の活用とその副作用への対処

- ①疼痛コントロール ②倦怠感 ③精神症状

6) 造血器腫瘍患者（白血病患者）の看護

- ①造血器腫瘍検査（骨髄穿刺など）
- ②造血器腫瘍治療（化学療法・造血幹細胞移植・放射線治療）
- ③造血器腫瘍治療における支持療法

7) 主要症状を有する患者の看護

- ①貧血 ②出血傾向 ③易感染状態

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ成人の 看護過程		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	(通年)	
担当講師	石丸 律子 山口 真喜子 古賀 恭子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

さまざまな問題に直面した成人期にある患者の看護過程展開の方法が理解できる。

2. 学習目標

- 1) セルフマネジメントが必要な患者の事例展開
- 2) 生命が危機的状況にある患者の事例展開
- 3) セルフケアを再獲得する患者の事例展開
- 4) 治癒困難な状態にある患者の事例展開

経過別看護の特徴を踏まえた患者の看護を展開することができる。

3. 授業内容

1人の成人期にある患者の各病期に応じた看護過程の展開をGWや個人ワークで行っていく。

授業の進め方 / 履修上の注意

各疾患の病態・症状・治療の理解だけでなく、治療・看護の経過別の特徴を踏まえた対象の理解を踏まえた看護の事例展開の演習を行う。

下記のテキストだけでは事例展開は困難であるため、各自必要と思われる書籍を借用するなどして準備しておく。また、講義の形態はグループワークと個人学習を併用する。

テキスト

『系統看護学講座 専門Ⅱ 女性生殖器』《医学書院》

『系統看護学講座 成人看護学総論』《医学書院》

『看護診断ハンドブック』

『患者さんの情報収集ガイドブック』

参考図書

『成人看護学 慢性期』《南江堂》

『系統看護学講座 別冊 がん看護』《医学書院》

『病気がみえる vol. 9 婦人科・乳腺外科』《メディックメディア》

『看護学生のための実習記録の書き方』《サイト出版》

評価方法

講義受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、筆記試験を総合して評価する。

なお、事例展開の内容を一部評価対象とするが、配点や内容は講義開始時に伝える。

分野	専門Ⅱ	授業科目	老年看護学概論			単位 (時間数)	1単位 (30時間)
						講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	坂本 清	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

老年期の意味や加齢による身体的・精神的・社会的変化を理解し、高齢社会の現状、老年者のライフスタイルやニーズを知り、老年看護学の目標・役割について学ぶ。

2. 学習目標

- 1) 老年看護の概念が理解できる：看護学の概要・老年期の理解・老年観と倫理的課題
- 2) 加齢に伴う心身の変化について理解できる：老化・恒常性維持能力の低下・身体機能の変化・心理、精神機能の変化、社会的機能の変化
- 3) 老年期の発達課題について理解できる：ハヴィガースト・エリクソンによる発達課題
- 4) 老年者の生活についてイメージできる：老年者の生きた生活背景・生活史・暮らし向き
- 5) 老年看護の目標と役割が理解できる：老年看護の目標・看護の役割・プラス面（残存機能）を活かす視点

3. 授業内容

回数	内容	回数	内容
1・2	第1章 老いるということ、老いを生きるということ 1. 老いるということ 2. 老いを生きるということ	8・9	1. 介護保険制度の整備
3・4	2章 高齢社会と社会保障 1. 高齢社会の統計的輪郭	10・11	1. 高齢社会における権利擁護
5・6・7	2. 高齢者社会における保健医療福祉の動向	12・13・14	3章. 老年看護の理念 1. 老年看護の成り立ち 2. 老年看護の目ざすもの

授業の進め方 / 履修上の注意

テキスト

①老年看護学 医学書院

参考図書

評価方法

評価は、講義・演習態度（出席状況、レポート提出状況等）筆記試験を総合して評価する。

テキスト

『系統看護学講座 老年看護学』《医学書院》

参考図書

『老年看護学』《メディカ出版》

『国民衛生の動向』《厚生労働統計協会》

評価方法

講義・グループワーク・全体討議の参加、発表、筆記試験等を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	高齢者のヘルスアセスメント と看護援助		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	坂本 清	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい(学習目的) 講師所属

加齢に伴う様々な現象が生活に及ぼす影響を学び、QOLを高める援助や福祉用具・器具の活用方法について理解する。

2. 学習目標

- 1) 老年者の機能低下に応じた日常生活の援助技術を理解できる。
- 2) 対象を取り巻く家族や支える人々との支援関係を気付くための方法を理解できる。

3. 授業内容

第1回	1) 加齢に伴う身体・心理・社会的特徴 2) コミュニケーションと看護ケア
第2回	1) 日常生活活動と評価 2) 廃用症候群について
第3回 / 4回	1) 老年者の身体的特徴 ①視力、聴力の低下 ②身体可動性の障害 2) 老年者の日常生活行動 3) 老年者と環境
第5回	1) 安全な環境とは 2) 起こり易い事故 ①転倒、転落 ②感染
第6回	1) 老年者と食生活 ①栄養と評価 ②アセスメント ③食事の援助
第7回	1) 食事の援助 ①口腔ケア ②義歯の管理 ③食事の工夫
第8回	1) 老年者と排泄 ①排泄障害 ②アセスメント ③援助
第9回	1) 老年者の清潔 ①清潔の援助 ②皮膚のアセスメント
第10回	1) 老年者の生活リズム ①活動・運動 ②休息(睡眠) ③生活リズム
第11回	1) 地域資源を活用した看護の展開 ①在宅高齢者への看護 ②保健医療福祉施設における看護
第12回	1) 地域資源を活用した看護の展開(介護家族への看護)
第13回 / 14回	1) 高齢者のリスクマネジメント(高齢者と医療安全)
第15回	終講試験

授業の進め方 / 履修上の注意

講義、グループワーク等

テキスト

『系統看護学講座 老年看護学』《医学書院》

参考図書

評価方法

筆記試験を中心に、レポートの提出状況、グループワークの参加状況等を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ 高齢者の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	丸本 義孝 坂本 清	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院 武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

老年期にある対象の特徴と発達段階を理解し、加齢や健康障害の程度に応じた看護を提供するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。

2. 学習目標

老年期に特有な疾患の特徴を知り、残存機能の維持・生活の質に視点をあてた看護の方法が理解できる。

3. 授業内容

- 1) ①脳卒中 (病態・診断・治療・看護ケア) ②検査と看護ケア
- 2) ①心不全 (病態・診断・治療・看護ケア要点)
- 3) ①パーキンソン病・パーキンソン症候群 (病態・診断・治療・看護ケア要点)
- 4) ①インフルエンザ (病態・看護ケア) ②肺炎 (病態・診断・治療・看護ケア要点)
- 5) ①感染性胃腸炎 (病態・診断・治療・看護ケア要点) ②栄養ケア・マネジメント
- 6) ①骨粗鬆症 (病態・診断・治療・看護ケア要点)
- 7) ①骨折・脊椎圧迫骨折・大腿骨頸部骨折 (病態・診断・治療・看護ケア要点)
②手術療法と看護ケア
- 8) ①褥瘡 (定義、発声機序、看護ケアの要点)
- 9) ①うつ (概念・高齢者のうつ、臨床的特徴、アセスメント)
- 10) ①せん妄 (臨床的特徴・リスク要因・アセスメントと看護ケア) ②薬物療法と看護ケア
- 11) ①認知症 (認知法の基本的構造・診断・治療と予防・評価・ケアの実際)
- 12) 終末期における看護ケア ①高齢者の死 (死のとらえ方・高齢者死亡に関する諸統計)
- 13) 終末期における看護ケア ①終末期ケアとは
- 14) 講義のまとめ (終講試験の傾向と対策)
- 15) 終講試験

授業の進め方 / 履修上の注意

講義、グループワーク

テキスト

『系統看護学講座 老年看護学』《医学書院》

参考図書

評価方法

講義・受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、グループワーク参加状況、筆記試験を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ 高齢者の看護過程			単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
						講義回数	7 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	坂本 清	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

加齢による変化と複合する疾患を併せもつ高齢者の看護について看護過程を通して学ぶ。
展開にあたっては、対象の持つ力を引き出せるような展開ができる思考過程を育てることを狙いとする。

2. 学習目標

健康障害をもつ高齢者の生活機能に着眼した看護の展開方法を理解できる。

3. 授業内容

1) 高齢者の特徴と看護の展開

大腿骨頸部骨折患者の看護事例

2) 高齢者の看護過程

① アセスメント(情報収集・分析・解釈)

i アセスメントに必要な視点 ii アセスメントのための客観的尺度

② 看護診断(問題の把握、問題の明確化)

i 顕在化している問題 ii 潜在的な問題の把握

③ 看護計画

④ 実施

⑤ 評価

授業の進め方 / 履修上の注意

個人ワークを基にグループで意見交換。

テキスト

『系統看護学講座 老年看護学』《医学書院》

参考図書

『系統看護学講座 運動器』《医学書院》

『事例で学ぶ老年看護学』《メジカルフレンド社》

『疾患別看護過程VOL. 2』《メジカルフレンド社》

評価方法

受講態度 (出席状況、身だしなみ、グループワークの参加状況、レポート提出状況等)、筆記試験を総合的に判断して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	小児看護学概論		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	工藤 広大朗	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

小児の成長発達段階と各期の特徴及び家族の役割について学び、対象を理解する。
また、小児を取り巻く、社会の動向と保健・医療・福祉・教育制度について学び、小児看護の機能と役割を理解する。

2. 学習目標

- 1) 小児の看護の動向が理解できる
- 2) 小児の成長・発達の評価方法が理解できる。
- 3) 小児各期の成長発達段階における療育及び看護について理解できる
- 4) 小児の家族をめぐる環境と変化について理解できる
- 5) 子どもの虐待と看護が理解できる。

3. 授業内容

- 1) 小児看護の特徴と理念
- 2) 小児の成長発達
- 3) 小児各期の特徴と看護 (新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)
- 4) 小児の家族の特徴とアセスメント
- 5) 小児と家族を取り巻く社会
- 6) 子どもの虐待と看護

授業の進め方 / 履修上の注意

- ・講義
- ・グループワーク
- ・効果的な学習のため、必要に応じて事前課題・事後課題を課す場合がある

テキスト

- ① 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学 1 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院
- ② 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院

参考図書

- ① 看護のための人間発達学 第4版 舟島なをみ著 医学書院
- ② 国民衛生の動向 2018/2019 財団法人 厚生統計協会

評価方法

グループワークの状況・レポート・筆記試験を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ 小児の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	工藤 広大朗	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

小児における特有な代表疾患と症状および看護について学ぶ。

2. 学習目標

- 1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常看護について理解できる。
- 2) 新生児の看護について理解できる。
- 3) 代謝性疾患と看護について理解できる。
- 4) 内分泌疾患と看護について理解できる。
- 5) 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護について理解できる。
- 6) 感染症と看護について理解できる。
- 7) 呼吸器疾患と看護について理解できる。
- 8) 循環器疾患と看護について理解できる。
- 9) 消化器疾患と看護について理解できる。
- 10) 血液・造血器疾患と看護について理解できる。
- 11) 悪性新生物と看護について理解できる。
- 12) 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護について理解できる。
- 13) 神経疾患と看護について理解できる。
- 14) 事故と外傷と看護 (応急時の看護) について理解できる。

3. 授業内容

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常看護 | 2) 新生児の看護 |
| 3) 代謝性疾患と看護 | 4) 内分泌疾患と看護 |
| 5) 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護 | 6) 感染症と看護 |
| 7) 呼吸器疾患と看護 | 8) 循環器疾患と看護 |
| 9) 消化器疾患と看護 | 10) 血液・造血器疾患と看護 |
| 11) 悪性新生物と看護 | 12) 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 |
| 13) 神経疾患と看護 | 14) 事故と外傷と看護 (応急時の看護) |

授業の進め方 / 履修上の注意

講義 (効果的な学習のため、必要に応じて事前課題・事後課題を課す場合がある)

テキスト

『系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論』《医学書院》

参考図書

『看護のための最新医学講座 第14巻 新生児・小児科疾患 改訂第2版』《中山書店》

『ナースの小児科学 改訂4版』《中外医学社》

評価方法

講義 (出席状況・身だしなみ・レポート提出状況など) 筆記試験を総合して評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	小児看護技術			単位 (時間数)	1単位 (30時間)
						講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年		
担当講師	工藤 広大朗	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校		
授業概要							
<p>1. 授業のねらい (学習目的)</p> <p>小児期の基本的特性を踏まえ、症状や検査・処置時の看護について学び、理解する。 また、小児看護に特有な看護技術については演習を交えて習得する。</p> <p>2. 学習目標</p> <p>1) 種々の症状に対する看護について理解できる。 2) 検査・処置を受ける小児の看護について理解できる。 3) 外来における小児と家族の看護について理解できる。 4) 入院時の小児と家族の看護について理解できる。</p> <p>3. 授業内容</p> <p>1) 症状を示す小児看護 2) 検査・処置を受ける小児の看護 バイタルサイン測定・与薬・輸液管理・抑制・検体採取 (採血・採尿・骨髓穿刺・腰椎穿刺)・ 経管栄養・吸引・吸入・蘇生法 3) 外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護 4) 小児の入院と小児・家族の看護</p>							
授業の進め方 / 履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習 ・効果的な学習のため、事前課題・事後課題を課す場合がある。 							
テキスト							
① 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院							
② 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院							
参考図書							
評価方法							
<p>グループワークの参加状況・グループワーク後の成果物・筆記試験を総合して評価する。 ※グループワーク後の成果物はグループ単位で評価を行います。</p>							

分野	専門Ⅱ	授業科目	健康障害をもつ 小児の看護過程		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	工藤 広大朗	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

疾病の経過別看護として、急性期・慢性期・周手術期・終末期のそれぞれの状況における小児と家族について理解する。

2. 学習目標

- 1) 疾病の経過と看護が理解できる。
- 2) 健康障害を持つ小児と家族の看護について理解できる。
- 3) 障害のある小児と家族の看護について理解できる
- 4) 小児の看護過程の展開の方法が理解できる。

3. 授業内容

- 1) 小児における疾病の経過 (急性期・慢性期・周手術期・終末期) と看護
- 2) 健康障害を持つ小児の生活と看護
- 3) 障害のある小児と家族の看護
- 4) 事例による看護過程の展開

授業の進め方 / 履修上の注意

- ・ 講義
- ・ 演習
- ・ 効果的な学習のため、事前課題・事後課題を課す。

テキスト

- ① 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
- ② 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院

参考図書

評価方法

グループワークの参加状況・グループワーク後の成果物・筆記試験を総合して評価する。
※グループワーク後の成果物はグループ単位で評価を行います。

分野	専門Ⅱ	授業科目	母性看護学概論		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	納富 裕子	実務経験	助産師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

母性看護を取り巻く諸状況(統計・法律を含む)をふまえ、母性の概念及び母性看護の意義を理解する。母性看護の対象である、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防についての基本的な知識と看護について学ぶ。女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、その特徴に合わせた看護を学べる内容とする。また、生命の誕生を学ぶ分野であり、自分の命や親、家族への感謝の気持ちを考える機会とし、自らの父性観・母性観を深めることができる内容とする。

2. 学習目標

- 1) 母性看護を取り巻く諸状況をふまえ、母性の概念及び母性看護の意義を理解できる。
- 2) 女性のライフサイクル各期の特徴を理解できる。
- 3) 女性の健康問題への支援に必要な知識・技術について理解できる。
- 4) 自らの父性観、母性観を述べることができる。

3. 授業内容

第1回	母性看護の基盤となる概念	講義
第2～3回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	講義
第4回	母性看護の対象理解	講義
第5回	母性看護に必要な看護技術	講義
第6回	女性のライフステージ各期における看護	講義
第7回	リプロダクティブヘルスケア	講義
第8回	筆記試験(45分)	

講義計画・内容は、変更する場合がある

授業の進め方 / 履修上の注意

講義・グループワーク

テキスト

森恵美著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護[1]，医学書院

参考図書

厚生統計協会：国民衛生の動向

太田操編：ウェルネス看護診断にもとづく 母性看護過程，第3版，医歯薬出版株式会社

評価方法

出席状況、授業態度、グループワーク参加状況、筆記試験を総合的に評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	妊娠期・分娩期の看護	単位 (時間数)	1単位 (30時間)
				講義回数	14回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	酒井枝津子 大島玲子	実務経験	助産師	講師所属	(酒井) 社会福祉法人 聖家族会みさかえの園 総合発達医療福祉センター むつみの家 (大島) 独立行政法人国立病院機構 佐賀病院

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

妊娠期・分娩期の生理的変化や身体的・精神的・社会的な特徴について理解するとともに、妊産婦および家族のニーズに基づく看護や保健指導について学ぶ。

2. 学習目標

- 1) 妊娠期・分娩期における生理的変化とその特徴を理解することができる。
- 2) 妊娠経過の診断と必要な保健指導や母子保健サービスを学ぶことができる。
- 3) 分娩の経過と必要な援助を理解する事ができる。

3. 授業内容

第1回	遺伝相談・不妊治療・妊娠期の身体的・社会的特性	講義
第2回～3回	妊婦と胎児のアセスメント	講義
第4回	妊婦と家族の看護 (母子手帳活用)	講義
第5回～6回	①妊婦検診・内診の介助 ②児心音測定・妊婦体操	演習
第7回	妊娠期の看護過程	講義
第8回	分娩の要素と分娩経過	講義
第9回	妊婦と胎児と家族のアセスメント	講義
第10回	産婦と家族の看護	講義
第11回～12回	分娩期の看護の実際	講義
第13回～14回	①産痛緩和の援助、呼吸法 ②分娩監視装置取り扱い	演習
第15回	筆記試験	

授業の進め方 / 履修上の注意

講義・演習 (母子手帳活用・腹囲測定・子宮底長測定・レオポルド触診・児心音測定・妊婦体操
産痛緩和の援助・呼吸法・分娩監視装置の取り扱い・内診の介助)・グループワーク・ディスカッション

テキスト

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学 [2]』森恵美 (著) 《医学書院》
『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版』太田操 (編) 《医歯薬出版株式会社》

参考図書

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学 [1]』森恵美 (著) 《医学書院》

評価方法

出席状況・グループワーク参加状況、演習態度、筆記試験を総合的に評価する

分野	専門Ⅱ	授業科目	産褥期・新生児期の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	納富 裕子	実務経験	助産師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

産褥期および新生児期の生理的変化や身体的・精神的・社会的な特徴について理解するとともに褥婦および新生児の看護や保健指導について学ぶ。さらに、これまでの学びを統合し母児を一体ととらえた産褥期の看護過程展開を通して妊娠、分娩、産褥期は生理的現象であることや、対象のより健康な状態を自己管理ができるように援助するウェルネス思考の考え方を理解する。

2. 学習目標

- 1) 産褥期の褥婦、家族の特徴を捉え、産褥期の看護を理解することができる。
- 2) 新生児の特徴を理解し、観察点を述べることができる。
- 3) 産褥期の保健指導と育児支援内容について理解することができる。
- 4) ウェルネス思考での事例を用いた看護過程の展開ができる。

3. 授業内容

1回	新生児の生理	講義
2～3回	新生児アセスメント	講義
4回	新生児の看護	講義・演習
5回	産褥経過・褥婦の看護	講義・演習
6～7回	保健指導 (退院指導)	グループワーク
8～9回	保健指導模擬実施	演習
10～12回	看護過程	講義 グループワーク
13～14回	新生児の観察・身体計測・沐浴	講義
15回	筆記試験	

授業の進め方 / 履修上の注意

講義・演習 (沐浴)・グループワーク・ディスカッション

テキスト

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学 [2]』森恵美 (著) 《医学書院》

参考図書

- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学 [1]』森恵美 (著) 《医学書院》
『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版』太田操 (編) 《医歯薬出版株式会社》
『病気が見えるVOL.10 産科』井上裕美 (監) 《メディックメディア》

評価方法

出席状況・グループワーク参加状況、演習態度、筆記試験を総合的に評価する。

分野	専門Ⅱ	授業科目	母性機能に障害をもつ人の看護		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	井田 裕子	実務経験	助産師	講師所属	ママと赤ちゃんの家 からこ 武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

- ・妊娠、分娩、産褥期に生じる異常と、ハイリスク新生児について、どのような状態のもとで正常から異常へと移行していくのか、またそれを予防し健康を維持していくためには、いかなる方策が必要であるかを学習する。対象とその家族に目を向け、ハイリスクにある対象の看護を展開するための周産期の異常についての基礎的知識を学習する。
- ・ハイリスクの状態にある妊産婦・新生児とその家族が抱えている問題について、対象の思いを尊重し考察ができる内容とする。健康障害に対する看護について、既習の病態生理の知識を基に科学的根拠に基づいた看護実践方法を学べる内容とする。さらに、女性のライフサイクルにおける健康障害として女性生殖器疾患の看護を学び、幅広い視野で母性看護を捉えられるような学習にする。事例展開を通し、対象に寄り添う看護、家族中心の看護について考察することができる内容とする。

2. 学習目標

次ページに記載

3. 授業内容

次ページに記載

授業の進め方 / 履修上の注意

講義・グループワーク

テキスト

- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護 [2]』森恵美 (著)《医学書院》
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学 [9]』末岡浩 (著)《医学書院》

参考図書

- 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護 [1]』森恵美 (著)《医学書院》
『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』《医歯薬出版株式会社》太田操 (編)
『病気が見えるVOL.10 産科』井上裕美 (監)《メディックメディア》

評価方法

出席状況やグループワークでの参加状況・筆記試験を総合的に評価する。

授業科目	母性機能に障害をもつ人の看護	担当講師	井田 裕子
------	----------------	------	-------

授業概要

2. 学習目標

- 1) 妊娠期の異常を理解できる。
- 2) 分娩期の異常を理解できる。
- 3) 産褥期の異常を理解できる。
- 4) 新生児の異常を理解できる。
- 5) 女性生殖器疾患患者の看護を理解する。
- 6) ハイリスク妊婦の看護を理解する。
- 7) 異常分娩時の産婦の看護を理解できる。
- 8) 異常のある褥婦の看護を理解できる。
- 9) 異常のある新生児の看護を理解できる。

3. 授業内容

- 1) 妊娠期の異常
- 2) 分娩期の異常
- 3) 産褥期の異常
- 4) 新生児の異常

徳廣

第 1 回	ハイリスク妊婦の看護	講義
第 2 回	異常分娩時の産婦の看護	講義
第 3 回	異常のある褥婦の看護	講義
第 4 回	異常のある新生児の看護	講義
第 5 回	事例検討	グループワーク
第 6 回	婦人科疾患の看護	講義
第 7 回	看護過程の展開 (切迫早産・帝王切開術)	グループワーク
第 8 回	筆記試験	

分野	専門Ⅱ	授業科目	精神看護学概論		単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
					講義回数	7 回＋テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	岡田世志美	実務経験	看護師	講師所属	独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

精神障害の基本的な考え方を学び、精神医療の動向と看護について理解する。

2. 学習目標

- 1) 精神障害の基本的な考え方が理解できる。
- 2) 精神保健医療と看護の歴史的変遷が理解できる。

3. 授業内容

1) 精神看護学で学ぶこと

- ①「心のケア」と現代社会 ②精神看護学とその課題 ③精神障害の体験と精神看護
- ④精神看護学でなにを学ぶのか

2) 社会のなかの精神障害

- ①精神障害と治療の歴史 ②日本における精神医学・精神医療の流れ ③精神障害と分化
- ④精神障害と法制度

3) 回復を助ける

- ①回復の意味 ②入院治療の目的と意味 ③治療的環境を作る

授業の進め方 / 履修上の注意

DVD (映画など) を用いて講義する。

テキスト

専門分野『精神看護の基礎』《医学書院》

専門分野『精神看護の展開』《医学書院》

参考図書

講義の中で適宜紹介する。

評価方法

終講時試験により評価する (100 点)

出席・授業態度も評価対象とする。

分野	専門Ⅱ	授業科目	こころの健康		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	西川清子	実務経験	看護師	講師所属	独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)
人間の各発達段階における健康な心の働きを知るための理論や方法を理解する。
2. 学習目標
 - 1) 人間のこころと行動について理解する。
 - 2) 人格の発達と情緒体験について理解できる。
 - 3) 人生各期の特徴と発達課題が理解できる。
 - 4) 心身症とその看護について理解できる。
 - 5) 家族支援について理解できる。
3. 授業内容
 - 1) 精神保健の考え方
 - ①精神の健康とは ②精神障害のとらえ方 ③ストレスと健康の危機 ④心的外傷が精神の健康に及ぼす影響 ⑤回復 (リカバリー) を支える力
 - 2) 人間の心のはたらきとパーソナリティ
 - ①人間の心の諸活動 ②心のしくみと人格の発達
 - 3) 関係のなかの人間
 - ①全体としての家族 ②人間と集団
 - 4) 地域における精神保健と精神看護
 - ①精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える ②地域で生活するための原則
 - ③生活を支えるための社会資源・サービス ④地域での看護の実際 ⑤学校における精神保健と精神看護
 - 5) 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス

授業の進め方 / 履修上の注意

教科書、配布資料に基づいて講義する。

テキスト

専門分野『精神看護の基礎』《医学書院》
専門分野『精神看護の展開』《医学書院》

参考図書

講義の中で適宜紹介する。

評価方法

終講時試験により評価する (100 点)
出席・授業態度も評価対象とする。

分野	専門Ⅱ	授業科目	こころを病む人と医療		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回＋テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	松本 和彦	実務経験	看護師	講師所属	プラスワン訪問看護ステーション 統括所長	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

精神障害の症状、診断の基礎や検査・治療について学び、代表的疾患とその治療を学習し、精神障害の基本的知識を身につける。

2. 学習目標

- 1) 精神障害の分類と特徴について理解できる。
- 2) 精神障害の症状、治療、検査について理解できる。
- 3) 検査について理解できる。
- 4) 治療方法について理解できる。
- 5) 嗜好と依存について理解できる。

3. 授業内容

- 1) 精神障害の分類と特徴
- 2) 医学的検査
 - ①臨床検査と生物学的背景 ②検査を知る
- 3) 心理検査
 - ①心理アセスメント ②知能検査 ③人格検査
- 4) 治療の構造
 - ①精神科における治療 ②薬物療法 ③精神療法 ④社会療法 ⑤電気けいれん療法
- 5) 嗜好と依存
 - ①依存のとらえ方 ②逸脱行動と「烙印」 ③治療・看護の特徴

授業の進め方 / 履修上の注意

一般的に講義形式 (パワーポイント)
DVDにての学習
グループワーク

テキスト

専門分野『精神看護の基礎』《医学書院》
専門分野『精神看護の展開』《医学書院》

参考図書

講義の中で適宜紹介する。

評価方法

終講時試験により評価する (100 点)
出席・授業態度も評価対象とする。

分野	専門Ⅱ	授業科目	こころを病む人の 看護の展開		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	○ 通年 ○	
担当講師	早田弘志/ 森貴弘 他	実務経験	看護師	講師所属	独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

早田/森 他

- ・こころを病む人の看護について、看護過程の展開を通して学ぶ。
展開にあたっては、対象を全人的に捉え、対象の持てる力を引き出せるような思考過程を育てることをねらいとする。
- ・精神看護における看護の姿勢やかかわり方を理解し、診察・検査時の看護や援助技術を学ぶ。

2. 学習目標

早田/森 他

- 1) 疾病と症状別看護が理解できる。
- 2) こころを病む人と家族の看護について理解できる。
- 3) こころを病む人の看護過程の展開の方法が理解できる。
- 4) 対象の理解の方法が理解できる。
- 5) ケアの方法が理解できる。
- 6) 生活障害の看護について理解できる。

3. 授業内容

次ページに記載

授業の進め方 / 履修上の注意

教科書、配布資料に基づいて講義する。

テキスト

専門分野『精神看護の基礎』《医学書院》

専門分野『精神看護の展開』《医学書院》

参考図書

講義の中で適宜紹介する。

評価方法

終講時試験、レポート提出状況などを総合して評価する。出席・授業態度も評価対象とする。

授業科目	こころを病む人の 看護の展開	担当講師	森貴弘 /早田弘志
------	-------------------	------	--------------

授業概要

3. 授業内容

()

- 1) 精神疾患およびその症状が日常生活に及ぼす影響および看護
- 2) こころを病むひとの日常生活援助および看護
- 3) 事例による看護過程の展開

森

- 4) 精神科看護における対象の理解 (事例を交えながらの講義)
精神科での援助
 - ・ ヒストリーを読む：家族背景と生活体験・育成歴の把握をする意味
精神科における観察の意味と特徴・方法
 - ・ 精神・情緒状態の把握：知覚・思考・意識・見当識・知能・自我意識・感情・意欲と行動それぞれの障害
 - ・ セルフケアレベルと各レベルに合わせた援助
 - ・ 対人交流パターンの把握：患者を取り巻く支援者との協力体制
- 5) 精神看護学におけるケアの方法1 (事例を交えながらの講義)
「治療的関わり」の考え方
 - ・ 精神科治療を受けている対象のコミュニケーションの特徴
 - ・ 看護に求められるコミュニケーションへの援助
「受容・共感・傾聴」面接法、コミュニケーション技法・環境調整の工夫
- 6) 以下の疾患における、対象の理解
 - ①気分障害
 - ②神経症性障害
 - ③発達障害
 - ④統合失調症

早田

- 7) 精神科看護におけるケアの方法2 (事例を交えながらの講義)
 - ①日常生活行動の援助
 - ・ 精神疾患の特徴、症状をアセスメントした日常生活の援助
 - ・ 患者の衣食住、セルフケアを整える援助
 - ②服薬治療に関わる援助
 - ・ 看護師は精神疾患を抱える患者の薬物療法にどの様に向き合う必要があるのか
 - ・ 抗精神病薬における副作用
 - ・ 患者の日常生活から介入する薬物療法看護
 - ③ストレスマネジメント
 - ・ 感情、アンガーマネジメントについて
 - ・ 客観的な視点を持つ事の意味
 - ④リエゾン精神看護師
 - ⑤CNSにおいては教科書参照
 - ⑥プロセスレコード

教科書

8章：ケアの人間関係 10章：安全をまもる 11章：身体をケアする 14章：リエゾン精神看護
最終章：看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス

統合分野

分野	統合	授業科目	在宅看護概論		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	太田 裕美子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)
在宅看護論の概念、役割、倫理が理解できる。
2. 学習目標
 - 1) 在宅看護の目的と特徴が理解できる。
 - 2) 在宅看護が求められた社会背景が理解できる。
 - 3) 在宅ケアにおける看護の役割が理解できる。
 - 4) 在宅看護に求められる倫理・権利擁護について理解できる。
3. 授業内容
 - 1) 在宅看護の目的と特徴
 - ①在宅看護の目ざすもの ②在宅看護における看護師の役割
 - 2) 在宅看護の対象者
 - ①対象者の特徴 ②家族支援
 - 3) 在宅療養の支援
 - ①在宅看護の提供方法 ②療養の場の移行 ③在宅看護の基本となるもの
 - 4) 在宅療養における権利保障
 - ①自己決定権 ②個人情報等の保護と情報開示 ③成年後見制度

授業の進め方 / 履修上の注意

講義、レポート

テキスト

『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』 医学書院

参考図書

『国民衛生の動向』

評価方法

筆記試験とレポート提出、授業態度などを総合して評価する。

分野	統合	授業科目	在宅看護の対象と法制度	単位 (時間数)	1単位 (30時間)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	三田村 美津子		講師所属	訪問看護ステーション ナースパワーあい 代表理事	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

在宅で療養しながら生活する人々及び障害を持ちながら生活する人々と、その家族を理解し在宅を支える法制度と社会資源、関係職種との連携が理解できる。

2. 学習目標

- 1) 在宅における看護の特徴を理解し、在宅における看護活動が理解できる。
- 2) 在宅療養者と在宅療養者を支える家族を理解できる。
- 3) 在宅ケアを支える法制度と社会資源が理解できる。
- 4) ケアマネジメントについて理解し、他職種との協働における看護の役割を学ぶ。

3. 授業内容

- 1) 在宅看護の特徴
 - ①医療施設看護との比較 ②在宅看護成立の条件 ③在宅看護の基本理念 ④地域包括ケアシステム
- 2) 在宅療養者と家族
 - ①家族とは ②家族の変遷 ③現代の日本の家族 ④在宅療養者と家族 ⑤家族をとらえる視点
- 3) 関係職種と社会資源
 - ①在宅看護にかかわる法規 ②関係機関と関連職種 ③在宅看護に関する経済的側面
 - ④訪問看護師の医療行為 ⑤関係職種と連携するための技術
 - ⑥介護保険法と関係職種の機能 (介護支援専門員について) ⑦高齢者の福祉施策の概要と在宅看護

授業の進め方 / 履修上の注意

講義、DVD, グループワーク、レポート

テキスト

『在宅看護論 実践をことばに 第6版』杉本正子、眞船択子 (編) 《ヌーヴェル・ヒロカワ》

参考図書

講義の中で適宜紹介する。

評価方法

評筆記試験とレポート提出・授業態度などを総合して評価する。

分野	統合	授業科目	在宅における看護技術		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	永松五百重/ 太田裕美子	実務経験	看護師	講師所属	/武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

在宅看護の生活援助技術 (診療の補助技術) が理解できる。
さまざまな状況にある療養者の援助が理解できる。

2. 学習目標

- 1) 在宅における医療技術に伴う生活行動支援技術について理解できる。
- 2) 在宅看護における安全性の方法が理解できる。

3. 授業内容

在宅看護技術 (永松先生)

- 1) 在宅での看護を展開するにあたって
- 2) 在宅で求められる看護技術
 - ①呼吸 ②食生活 ③排泄 ④移動・移乗
 - ⑤清潔 ⑥認知機能のアセスメント
 - ⑦コミュニケーションの支援
 - ⑧エンドオブライフケア
- 3) 在宅における医療管理を要する人の看護
 - ①褥瘡の予防とケア ②導尿留置カテーテル
 - ③ストーマケア ④経管栄養

在宅看護の実際 (太田先生)

- 1) 脳血管疾患療養者の在宅看護
- 2) パーキンソン療養者の在宅看護
- 3) 認知症療養者の在宅看護
- 4) ALS療養者の在宅看護
在宅人工呼吸療法 (HMV)
- 5) COPD療養者の在宅看護
非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV)
在宅酸素療法 (HOT)
- 6) 独居療養者の在宅看護
- 7) 終末期療養者の在宅看護
- 8) 統合失調症療養者の在宅看護

授業の進め方 / 履修上の注意

講義、レポート、DVD (技術)

テキスト

『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』 医学書院

参考図書

講義の中で適宜紹介する。

評価方法

筆記試験とレポート提出、授業態度などを総合して評価する。

分野	統合	授業科目	在宅療養している人の 看護過程		単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
					講義回数	14 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	太田 裕美子	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

在宅での生活する人及びその家族の特徴をふまえた看護過程の展開が理解できる。

2. 学習目標

- 1) 在宅で生活する療養者及びその家族の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。
- 2) 在宅看護の実際を在宅看護介入期別に理解できる。
- 3) 在宅での終末期ケアの看護過程の展開が理解できる。

3. 授業内容

- 1) 在宅看護過程展開のポイント
- 2) 在宅看護過程の展開方法
- 3) 在宅看護のアセスメントと関連図作成
- 4) 在宅看護介入時期別の特徴
- 5) 在宅看護の看護過程の事例展開
 - 事例検討：(1) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 療養者の看護過程
 - (2) 脳血障害療養者の看護過程
 - (3) 難病の療養者の看護過程

授業の進め方 / 履修上の注意

講義、個人ワーク

テキスト

『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』 医学書院
『患者さんの情報収集ガイドブック 第2版』 古橋洋子 (監) 《メヂカルフレンド社》

参考図書

講義の中で適宜紹介する。

評価方法

筆記試験とレポート提出・授業態度などを総合して評価する。

分野	統合	授業科目	統合看護技術		単位 (時間数)	1単位 (30時間)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	中原 輝子 樺澤 秀美	実務経験	看護師	講師所属	武雄看護リハビリテーション学校	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)
既習の知識・技術を統合し、臨床判断を行うための基礎的能力を身につけることができる。
2. 学習目標
 - 1) 複数患者に対する看護について優先順位を考慮することができる。
 - 2) 対象の状態や状況に応じた看護を実践することができる。
3. 授業内容
 - 1) 複数患者の1日の行動計画立案
優先順位の考え方 (時間管理、安全・安楽 他)
 - 2) 事例に応じた看護技術の実施：模擬患者との対応

授業の進め方 / 履修上の注意

演習、グループワーク

テキスト

参考図書

- 任 和子 : 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 I, 医学書院, 2020.
 任 和子 : 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II, 医学書院, 2020.
 上泉和子 : 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理, 医学書院, 2020.
 岡庭 豊 : 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版, メディックメディア, 2018.

評価方法

筆記試験・演習態度・レポートにより評価する (100点)。
 出席・授業態度も評価対象とする。

分野	統合	授業科目	国際看護		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	武田 七重	実務経験	看護師	講師所属	JICA九州 国際協力推進員 佐賀県海外協力協会	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

国際社会における保健・医療・福祉の実情を知り、国際協力について主体的に考えることができる。

2. 学習目標

- 1) 世界の現状と国際看護の概要が理解できる。
- 2) 異文化理解と国際看護活動が理解できる。

3. 授業内容

1) 国際看護学を学ぶことの意味

- ①国際社会の現状 ②ワークショップ～貿易ゲーム～ ③SDGsについて

2) 国際看護活動を推進する人と機関

- ①世界における国際協力 ②国際機関が行う国際看護
③日本が行う国際看護 (JICA・NPO/NGO)

3) 異文化理解と国際看護活動

- ①文化とは? ②国際看護活動に必要な能力 ③ワークショップ～援助する前に考えよう～

4) 国際看護活動の実際

- ①海外における看護活動～バヌアツ共和国での国際看護活動から ②国内の在日外国人への看護活動

授業の進め方 / 履修上の注意

講義とグループ型ワークショップを組み合わせた形式で行う。

テキスト

『国際看護学』《メディカルフレンド社》

参考図書

『国際保健医療のお仕事』《南光堂》

『国際協力師になるために』《白水社》

『世界と恋するおしごと 国際協力のトビラ』《小学館》

評価方法

講義・演習態度 (出席状況、レポート提出状況等)、筆記試験を統合して評価する。

分野	統合	授業科目	災害看護		単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
					講義回数	7 回+テスト
開講年次	3 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	秋永 和之 沖田 洋一郎	実務経験	看護師 救急救命士	講師所属	福岡看護大学 杵藤地区広域市町村圏組合消防本部	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

災害時における医療の役割を知り、災害サイクルに応じた看護を行う必要性を理解し、災害時における人々の健康や生活ニーズに応じた支援活動を行うための看護の基礎を学ぶ。

2. 学習目標

講義

- 1) 災害看護の基礎知識と看護について理解し、看護職の役割について考えることができる。
- 2) 災害看護に関する基礎的知識と基本姿勢について述べるができる。
- 3) 災害時要援護者の特徴と支援の必要性について述べるができる。
- 4) 災害時の被災者および援助者の心理と援助について述べるができる。
- 5) 災害サイクル各期における看護職の役割について述べるができる。

演習

- 1) 災害時のトリアージの意義と方法について述べるができる。(演習)
- 2) 救急活動に必要な技術(応急処置と搬送)ができる。(演習:災害シミュレーション)

3. 授業内容

講義

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1) 災害の定義について | 2) 災害のサイクルと看護活動 |
| 3) 災害時の情報収集と伝達手段
「METHANE」について | 4) 急性期の看護活動「CSCATTT」
について |
| 5) 避難所での看護活動 | 6) 心のケア |
| 7) 災害時の保健活動と衛生管理 | 8) 包帯法 |
| 9) 広域搬送について | |

演習

演習 3 回 (6 時間)

授業の進め方 / 履修上の注意

- ・パワーポイントによる講義・ディスカッション・資料配布・ビデオ学習・演習(三角巾必要)
- ・グループワーク

演習に必要なもの: トリアージタグ(ひとり1枚・学校で準備)、救急搬送ボード2個(病院より借用)

テキスト

『災害看護』《メディカ出版》

参考図書

『DMAT標準テキスト』一般社団法人日本集団災害医学会(編)《株式会社へるす出版》

評価方法

テスト(100点満点)

分野	統合	授業科目	看護管理		単位 (時間数)	1単位 (15時間)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	田川 由美子	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

現在の看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動としてとらえられている。対象のニーズを満たす看護サービスを提供するためには、看護職同士の協働、他職種との連携、対象や対象を取り巻く家族の協力と、対象を取り巻くあらゆる資源の活用について調整と責任感のあるリーダーシップ及びマネジメントができる能力を養う。

2. 学習目標

チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整とリーダーシップ及びマネジメントができる能力について理解できる。

3. 授業内容

1) 看護とマネジメント

①看護におけるマネジメント

2) ケアのマネジメント

①ケアのマネジメントと看護職の機能 ②看護基準と看護手順 ③患者の権利の尊重
④安全管理 ⑤看護職の協働 ⑥他職種との協働

3) 看護サービスのマネジメント

①看護サービス、組織目的達成、協働・情報・技術のマネジメント

4) 看護をとりまく諸制度

①看護職の定義 ②看護実践の領域と場 ③医療制度

5) マネジメントに必要な知識と技術

①組織とマネジメント ②リーダーシップとマネジメント ③組織の調整 ④組織と個人

授業の進め方 / 履修上の注意

講義、レポート、グループワークなど

テキスト

『系統看護学講座 看護管理』《医学書院》

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

筆記試験、レポートと授業態度などを総合的に評価する。

分野	統合	授業科目	医療安全		単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
					講義回数	7 回+テスト
開講年次	2 年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	波多 純一	実務経験	看護師	講師所属	新武雄病院	

授業概要

1. 授業のねらい (学習目的)

今日の医療現場では、強力な薬剤や優れた機器が導入され、昼夜を問わず医療行為が続けられている。看護師はそうした行為の最終的な医療行為者や観察者となることが多く、わずかな間違いや観察不足が患者の重大傷害に結びつくという日常に身を置いている。医療安全の確保には、個々の医療従事者と医療システム双方の安全強化が欠かせない。そこで、『医療安全』では看護事故の構造と事故防止の考え方を中心に講義を行う。

2. 学習目標

医療安全に対する取り組みと医療事故の防止・対策を学ぶ

3. 授業内容

- 1) 医療安全を学ぶことの大切さ・事故防止の考え方
- 2) 医療事故と看護業務 看護事故の構造 事故防止の考え方
- 3) 診療の補助業務に伴う事故防止 1
- 4) 診療の補助業務に伴う事故防止 2
- 5) 療養上の世話における事故防止
- 6) 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因
- 7) 医療安全とコミュニケーション
- 8) 終講時試験

授業の進め方 / 履修上の注意

テキストと資料を中心に講義を進める。

テキスト

『系統看護学講座 医療安全』《医学書院》

参考図書

評価方法

講義受講態度 (出席状況、身だしなみ、レポート提出状況等)、筆記試験を総合して評価する。

